チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。


営業二課／栗田満夫

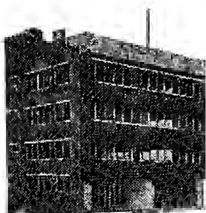
パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。

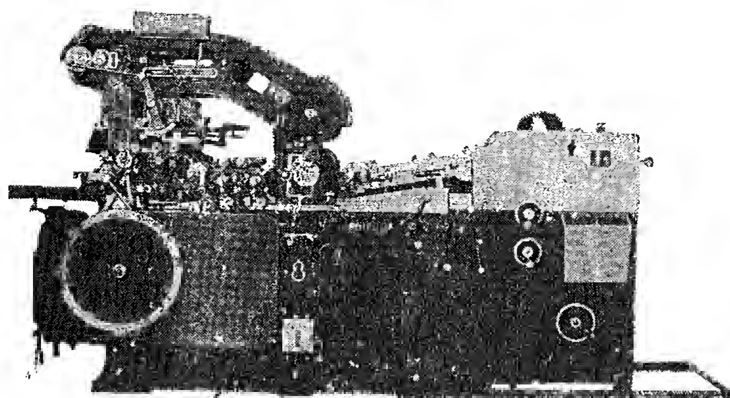
超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。


営業一課／庄司政雄

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。よい製品をつくる励みになります。


営業三課／打林行夫


本社新社屋

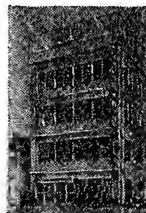


新製品 **パーフェクト** 全自動B四截凸版印刷機

8

千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本　社	東京都千代田区神田猿楽町１－４　TEL　東京(292) 2011（代）～８
横浜支社	横浜市西区高島通り１－７　TEL神奈川(045) 44－6572・7358・7028
福岡支社	福岡市御供所町３番16号（聖福寺前）　TEL　福岡（28）3960・0153
立川工場	東京都昭島市東町１丁目１番地５号　TEL　立川(0425)２－2470・4383
九州工場	佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）　TEL　牛津　７２


横浜支社

ハンドボール「第58号目次」

昭和43年10月号

表紙写真　第18回全日本学生選抜東西対抗戦から
（9月15日愛知県体育館）

世界女子選手権中止に想う

日本ハンドボール協会々長代行
保坂周助

ソ連軍がチェコへ進入して非道極まる武力行使に出たことは近来まれにみる大ニュースであった。図らずも我々はそれによって大きな被害を受けるハメにおちいったことは遺憾この上もないことである。

国際試合にめぐまれない我々は、今年十二月ソ連で開催されることになってた標記大会に幸い参加の権利を与えられ、絶好のチャンスということで関係者一同張り切って準備を進めていた矢先きに「中止」ということで何とも残念でたまらなかった。

中止に至るまでの経過についてはすでに報ぜられている通りで、八月三十日、三十一日オランダで開かれたIHF総会の劈頭、突如緊急議題として提出され議論の末投票に持ちこまれ、その結果、中止13票、中止反対12票、棄権2票で中止ときまったものである。大会開催準備を整えていたソ連ハンドボール関係者も残念であったことと思う。本協会からも荒川理事長が日本を代表してこの会議に出席していたが自由諸国の国民感情からして、残念ではあるがこの結果も又やむを得ないものであると考えたもようである。

国際スポーツ界は東西の争い、南北の対立或いは人種差別等の影響で年中問題を起している。由来スポーツは、特にオリンピックでは人種宗教又は政治上の理由によって差別待遇することはまかりならんということになっておりこれを理想としている。然し現実の問題はなかなかそう理想通りいっていない。日本でもこれ迄北鮮と南鮮、台湾と中国、あるいは共産圏と自由諸国の対立で何回か苦労を重ねさせられ、国際スポーツの難しさを経験してきている。せめてスポーツの世界だけでも「世界は一つ」ということでいきたいものである。チェコ侵入のソ連などとは試合は出来ないという国々は今度のメキシコオリンピックをどうするかが気にかかる。出来得ればみんな参加してスポーツを通して相互信頼、尊敬の念を深め、世界の平和、国際親善に寄与してもらいたいものである。

御承知の通り標記大会参加の日本女子選手団はすでに決って居りこれ迄全員一致協力して努力を重ね三回の強化合宿も終って、本大会での大活躍が期待されていたことで御互い全くあきらめきれないものがある。代るべき大会もすぐには開催される見とおしは全くないし、又来年の国際試合のスケジュールは来年四月にきめるといい、女子選手の競技生活は男子程長くはないこと等考えるとまことに残念ではあるが、然し男女共来るべきミュンヘンのオリンピック出場を目指してみんなで今から練習にはげんでもらいたいと思う。

弱くては出場さしてもらえない。来年あたり相当の実力と、実績を挙げておかないとJOCは派遣してくれないと見る。勿論本協会自体は万全をつくして普及、強化に当らなければならないが、日本国中のハンドボール関係者、各チーム共夫々の部門で一層の奮起を望んでやまない。

（今号は時評を休載いたします）

世界女子選手権の中止決まる

〝チェコ侵入〟事件でIHF総会が議決

国際ハンドボール連盟（IHF）は、8月30日夜、オランダのアムステルダムで、今冬12月13日から9日間ソビエトのモスクワ、レニングラード、キエフなどで行う予定の第4回世界女子7人制選手権大会を中止すると発表した。

これは同日開かれた第12回IHF総会の冒頭に「ソビエトなど東欧5ケ国のチェコ侵入事件で同選手権大会を予定どうり行うか、どうか」という緊急動議があり秘密（無記名）投票の結果、13－12（そのほかに棄権2）の僅少差で中止に決ったことに基くものである。

日本協会は、同総会に出席していた荒川清美理事長の帰国（9月6日午後4時5分、羽田着）を待ってただちに東京代々木の体協会議室で緊急常務理事会を開き、荒川理事長の報告を聞いて、IHFの決定を再確認した。

予想されたこととはいえ、今回のIHF総会の決定は誠に残念である。

もはや「政治とスポーツは別」「スポーツに国境なし」などという言葉が空しいひびきしか残さぬことは〝常識〟でさえあるが、4年に1度の栄光を夢みて、必死の努力をつづけて来た選手たちを待っていたものが〝中止〟という無惨非情な報せであったとは…。

しかし、荒川理事長によれば、「総会におけるこの緊急議題の処理はいたって冷静のうちに行われた」ということだし中止が決まった時も「むしろ、当然の結果であるというムードが支配的だった」そうである。

総会では『ソビエトでの開催反対』あるいは西欧諸国が『共産諸国との試合を拒否』といった声はひとつもあがらず、単に『今冬の世界選手権を予定どおり行うかどうか』ということで協議が進められたようで、IHF首脳陣が、スポーツと政治は別という精神を少しでも守ろうとした苦慮をそこに感じとれる。

採決の方法は、挙手（代表席に飾られた国旗をあげることによる意思表示）、記名投票なども初めは考えられたようだが、「今後の影響」を考えて秘密投票（無記名投票）で行われ

中止に賛成………13ケ国
中止に反対………12ケ国
棄　　権………2ケ国

という結果のみが発表された。

ソビエト〝開催〟に執着

開催国のソビエトは、すでにこの大会のために新設中の会場が完成に近いばかりか、入賞国に渡す金・銀・銅メダルなどの諸準備もほとんど終わっており、是非、予定どおり開催して欲しいと力説したが、わずか1票の差でその願いも空しいものになってしまった。

どの国がどちらに投票したかは永久に秘密だが、数字を見ると賛否が最少差1票であったことと「棄権2」が微妙な存在であることに注目させられる。

仮に、棄権した2ケ国が反対票に投じた場合、結果は逆となるわけで、そうなれば、国際情勢から判断して西欧諸国の大会ボイコットという不隠な事態を招じてしまうことになりかねない。

卒直にいって日本の態度、立ち場もいろいろ難しくなっていただろう。

日本協会のある役員は「スポーツに政治が介入することはまったく残念だが、現状ではさけられぬ問題だ。

IHF総会の今回の決定は、むしろ今後に波紋をおこさぬという点で適切ではなかろうか」といっている。

だが、現実には波紋は起きている。9月5日タス＝共同電として各報道関係が伝えるところによれば、ソビエトのスポーツ紙「ソビエッキー・スポルト」は、今回のIHFの決定は「差別的決定」だと非難し、チェコ問題を材料にして、IHF会議を反共産主義、反ソビエトの宣伝に利用したと述べているといわれ、さらに9月6日タス電として朝日新聞が伝えたニュースによれば、ソビエト女子ハンドボールチームのメンバーがIHFに対して、「スポーツマンの友好関係に政治色を加えようとする国際連盟の不法なやりくちに対し強く抗議する」という内容で出した手紙を「ソビエツキー・スポルト」紙が掲載したという。

これに対するIHFの態度、あるいは西欧諸国の反応は今のところ（9月20日）まだ判っていないが、当分のあいだ、この問題がくすぶりつづけることはまぬがれぬであろう。

欧州遠征計画も断念

ところで、IHFの決定を聞いた日本の関係者は落たんの色をかくせず、田村正衛団長は8月30日深夜自宅で中止決定の報を聞いて「やっぱり……」といったまましばらく次の言葉が出てこなかったし、荒川理事長も帰国早々の記者会見で「永年の宿願である6位内入賞を果す絶好のチャンスを逃した。ヨーロッパ各国でも日本の力を高く評価し、マークしていただけに……」と残念がることしきりだった。小袋是郎監督も「体の力が抜けて当分なにもやる気がしない」といっぺんにこれまでの疲れが出た感じである。

9月7日夜、東京代々木の体協で開かれた緊急常務理事会では、荒川理事長の帰国報告を了承したあと、全日本女子チーム14人をいちおう各チーム（田村紡7、大崎電気4、大洋デパート2、三菱鉛筆1人）にもどし、10月1日からの福井国体に出場させそのあとで「解団式」を行うことになった。（時日未定）田村団長、小袋監督らは『今回の代表チームの力をどうしてもヨーロッパで試してみたい』という希望をもち、今シーズン中にヨーロッパ遠征ができるならば派遣したい意向が強かったが経費面の問題やIHF総会が今シーズンの男女ヨーロッパカップトーナメントの中止を決定していること、権威のある国際トーナメントがほとんど今年は流会になるも

のと予想されているためこの計画も断念した。

なお、今回の決定（中止）で、女子の世界選手権（7人制＝室内）は、規約によれば一九七二年（昭47）まで開かれないことになる。

この年は御承知のとおりミュンヘン・オリンピックの年だ。オリンピックで女子も実施されるようだと重複するわけで、その場合は前年（一九七一年＝昭46）に開くような特別処置がこうじられることになるのだろうか。

消息筋は、ミュンヘンにおける女子の採否が決まってからIHFは動きだすだろうとみているが、ちょっと気になるところだ。

「一応満足すべき結果」
バウマン会長語る

IHF総会を終えたバウマン会長はこのほどバーゼルの自宅に戻ったが、フランスのスポーツ紙〝レ・キップ〟（9月8日付）が伝えるところによると、同会長は今回の総会をふりかえって次のように話したという。

『世界女子選手権中止という、組織（IHF理事会のこと）の出した提案が通ったので一応満足すべき総会であったといえるだろう。

中止か否かの投票はアフリカ諸国の多くがソビエト側についたので緊迫したものとなった』

馬場副会長が渡欧

日本協会副会長馬場太郎氏（桃山学院大教授）は、ヨーロッパの体育事情とハンドボール界の視察研究のためこのほど渡欧した。

評議員会など招集

日本協会では、次の日時で臨時評議員会と全国理事会を招集した。

一、臨時評議員会
10月4日午後4時
福井県高浜町「よごめ」旅館

一、全国理事会
10月2日午後4時30分
（場所は評議員会に同じ）
なお10月2日午後7時から同所で全国理事長会議も開かれる予定

世界選手権の中止と　その後の波紋

女子第4回7人制ハンドボール世界選手権大会はついに中止になった。世界選手権をめざし、国内の大会に出場することもなく、ひたすらの練習にはげんでいた代表チームの選手達の落たんはさぞかしと思われる。

今度こその意気ごみで、例年になく早く選手団を編成した関係者の失望も大であろう。

スポーツの世界に政治が……とか良く云われている。理念的にはもっともである。ギリシヤの昔にあったように、オリンピックの期間は戦争をやめ、ギリシヤ人は皆オリンピックに参加し、その時は惜しみを忘れ、互いに全力をつくす。これが理想的なスポーツの世界であろう。

しかし、現代にはこういうおおらかさは薬にしたくてもない。

IHFの総会に於ける世界選手権大会の中止決定はきわめて僅差で決定している。また本年度のヨーロッパ杯の中止の決定は会長採決をまつという正に伯仲の投票数であったと伝えられている。

これが単に今回だけの決定にとどまればいいが、国際ハンドボール界を大きくゆさぶる動きにもなりかねない。すでにソ連体協では、IHFの非難がはじまっており、IHF主脳部が名指しで攻撃されている。

いままでIHFの各国間はかなりうまくいっていた。それでも、前回の女子世界選手権のソ連のボイコット問題、ヨーロッパ杯への不参加といくつかの問題がすでにおこっている。今後にこの問題が尾をひかなければいいと思うが、幾多の問題がひきおこされそうである。

今冬に始まる第7回男子世界選手権の予選もいくつかの組み合せで問題が生じそうである。

また実力をつけてきている東欧圏のソ連側の諸国の種々の形の働きかけもあろう。

オリンピックを控えた1970年の世界選手権は前哨戦というより、オリンピック参加の予約券という大きな意味をもっている。この選手権がどういう形をとるかによっては、今後のオリンピックに投げかけられる波紋はきわめて重大なものがあろう。

オリンピックは曲り角に来ていると多くの人々が考えている。今冬の冬季オリンピックにはじまりメキシコ大会にも種々の問題が内包されている。国名呼称、南ア問題、チエコ問題、黒人問題等々の世界の各地に山積されている難問がオリンピックの時に、正にその時に種々な形で影響を与えている。スポーツというものは、現在では、単純なスポーツである以上に重要な発言の場として、大きなウエートを占めてきつつある。これらの山積する難問が真の意味で解決され、36年ぶりに迎えるオリンピックの舞台にハンドボールが登場できるように切望する

藤本強

IHF総会出席の荒川理事長に聞く

8月30，31日オランダのアムステルダムで開かれた第12回国際ハンドボール連盟（IHF）総会に日本代表として出席の荒川清美理事長（写真）は，9月7日午後帰国された．

世界女子選手権の中止という史上初の採決など多くの注目をあびた同総会の模様を聞いてみた（編集部）



―ソビエトをはじめとする東欧諸国のチェコ侵入という思いもかけぬ事態があり、今回の総会の雰囲気はかなり緊迫していたと思うのですが

理事長　まったくそのとおりでした。バウマン会長も会議終了後のレセプション席上「今回は各国代表諸氏にとって満足のいく内容ではなかったと思うが…」とスピーチしたほどです

―世界選手権中止までのいきさつをお話し願えませんか

理事長　総会の前日にIHFの技術委員会と理事会が開かれ、そこで一応〝中止にすべきだ〟という意見にまとまっていたようです。総会ではこの理事会の賛否が問われた形になったわけです

―バウマン会長から説明があったのですか

理事長　開会の辞を述べたオランダ協会の会長が『IHF発祥の地である（注・IHFは一九二八年アムステルダムで発足）当地で開いたこの総会の席上、まことに遺憾な内容の議題を協議しなければならないが』といって理事会の決定を報告し、出席諸国の賛否を問うよう議長に申請したわけです

―総会の議長は

理事長　バウマンIHF会長です

―そこで早速投票が行われたのですか

理事長　いや、世界選手権の開催国であるソビエトの代表が、すべての受け入れ準備が完了に近い現在、是非予定どおり大会を開いてくれとまず発言しました。

また、政治とスポーツは別であるといった意見も出て、発言された内容はむしろ開催説が支配的で、理事会案に反対する空気が強かったようでした。

そのうちに、意見を交換しているばかりでは時間を費すのでこのあたりで採決をすべきだという動議が出されたのです。

―採決の方法は

理事長　初めはその場で席に飾られた国旗をあげるか、さげるかによって意思表示する方法を採ると伝えられたのですが、今後いろいろな問題を生んではという配慮から秘密投票ということになり、無記名のカードに賛否のいずれかを書く方法によって採決されました。

―その結果が13―12、棄権2（本誌2頁参照）になったわけですね

理事長　そうです。議長から数字のみが発表されたのです。

ミュンヘン、男女開催へ

―話の順が逆になりますが会場の雰囲気、出席国数などを聞かせて下さい

理事長　会場はICCという公園の中にある国際会議専用のホールがあてられました。こじんまりとした会議場で27ヶ国の代表とオブザーバーとしてイタリアなど4ヶ国が出席していました。

―会議の進行は

理事長　あらかじめ各国から提出されている議案を次々に議題にかけ、提案国からの説明、主張のあと討議をくりかえすわけです。

―ミュンヘン・オリンピックに関する議題はどのように処理されたのですか

理事長　ミュンヘンでは是非とも男女を行おうという意見が強く出され、IOC（国際オリンピック委員会）に働きかけることになりました。

総会に出席する前、西ドイツに立ち寄った時に聞いた話では、西ドイツ関係者は男子16、女子8ヶ国が理想だといっていました。

―総会ではそうした具体的な数字も出たのですか

理事長　出ませんでしたが男女開催ということになれば、男子16というのは難しいのでは、といった空気がありました。

―この問題の推進は西ドイツが今後中心になるわけですね

理事長　ドイツ体育協会長とドイツハンドボール協会長、それにIHF首脳のバックアップということになると思います。10月上旬にメキシコシテイで開かれるIOCとIFの会議やIOC総会でこの問題はある程度のメドがつくでしょう。

―出場国の決定については

理事長　男子16の場合、8つは一九七〇年フランスで開かれる予定の第7回世界男子7人制選手権の上位8ヶ国に自動的に出場権が与えられ、残りの8つは予選勝者ということになります。

西ドイツ筋では、予選はアジア、アメリカ、アフリカそれにヨーロッパの4ゾーンに分かれて行われることが望ましいと云っていましたが、必しもそうとばかりは云えないという意見もあるようです。

4ゾーンに分けられるとすればアジアなど3ゾーンは各1、ヨーロッパから5ヶ国が割り当てられると見ています。

―ミュンヘンの関心は

理事長　これは各国とも大変なものがあります。

IHFの役員も、ミュンヘンオリンピックが行われることで

もあるし、このまま全スタッフ留任させて欲しいという意見がバウマン会長から出され認められました。

――日本の理事国立候補はどうなったのですか

理事長　いちおう日本として理事国になる用意があると意思表示をしたのですが現スタッフを推せん・留任という声が圧倒的に強く、率直のところ話にならないといった感じでした。

――IHFのヨーロッパ偏重について意見はないのですか

理事長　モロッコから「理事の選出母体を各大陸単位にすべきだ」という提案もありましたが却下されました。

――韓国からは代表が来ていましたか

理事長　朴応喆氏が出席していました。

――バウマン氏の信任は厚いものがあるようですか

理事長　役員改選の冒頭満場一致で留任が決まり、つづいてバウマン会長が副会長以下現スタッフの留任を推せんしたわけです技術委員会も全員信任されました。

復審制は当分の間見送り

――そのほか今回決定された主な議題を聞かせて下さい

理事長　各国まちまちのジュニアの年令を男子は20～22才、女子は19～21才に統一すること

国際試合のコートの広さは40m×20mが「最も望ましい広さ」であること

復審制については、現在西ドイツなど5ケ国が採用しているだけなので当分実施に踏み切ることが出来ず、各国で積極的に〝テスト〟するよう申し合せたにとどまりました。

各国チャンピオンチームによるヨーロッパカップをヨーロッパ地域に限らず全世界的な規模に拡張するという案は、チェコ問題の余波で、今回は決定をみませんでした。

因みに、今年のヨーロッパカップの開催についても秘密投票が行われ13対13、棄権1で結局議長(バウマン会長)の採決ということになり流会が決まってしまいました。

また、一九七〇年の第7回世界男子7人制選手権の地区予選が、今冬から始められる予定でしたが（注・日本はアジア代表として直接本大会へ出場）、これも来春まで延期することになりました。時間が経てば、世界の情勢も変わるだろうという配慮からです。

そのほか、世界選手権などIHFが主催する国際大会のチーム構成をGK2、FP12名の計14名とすることが明文化されることになりました。

――加盟国については

理事長　イタリアの正式加盟が承認されましたが、イギリスは実績不足ということで否認されてしまいました。

――日本の評判、あるいは日本への関心は

理事長　可もなし、不可もなしといったところですが、かって来日したルーマニア、フランスなどは再び代表チームを送りたいといっていましたし、西ドイツもオリンピックの前年日本遠征をしたいといっています。

日本への関心高い西独

――総会前、西ドイツに立ち寄られたそうですが収獲は

理事長　西ドイツの会長、副会長をはじめヘップマイヤー理事長ファイク男子ナショナルチームコーチなどと会いミュンヘンオリンピックについて話を聞いてきましたが、出場国などについては先ほどお話したとおりです。

日本への関心は高く、西ドイツからチームを招く場合は、単独クラブでも西ドイツ協会を通じて推せんしてもらうことを話しあって来ました。

――試合は見ましたか

理事長　オランダでは見ませんでしたが、西ドイツでは女子のナショナルチームの練習試合を見る機会がありました。

ドルトムントの近くで強化合宿中で、地元のクラブと試合をしていたものです。

昨秋来日したメンバーのうちミューラーら3人が居ましたが、チーム力はほとんど変らず、世界選手権で同じ組になった日本にとって楽な相手だと内心喜んだのですが――

――予想もせぬ大問題がおこりさぞ御心労だったと思いますが他に何か印象づけられたことがありましたか

理事長　チェコ事件の影響はやはり、総会の雰囲気を重く押しつつんでいたようです。国と国の打ちあわせ風景が各所でみられ、〝ヨーロッパの復雑さ〟を見る思いで強い印象を焼きつけられました。

しかし、ミュンヘンオリンピックを前に各国の熱意の高まりは想像以上で、日本もこのムードに乗り遅れてはならないと思います。

――どうも、お疲れのところありがとうございました。

（9月9日、日本ハンドボール協会室で）

再選されたIHF役員

第12回国際ハンドボール連盟総会で再選されたIHF首脳陣は次のとおり。

▽会長　ハンス・バウマン（スイス）▽首席副会長　シャルル・プチ・モンゴベール（フランス）▽次席副会長　ポール・ヘグベルク（スウェーデン）▽理事長　アルベール・ワグナー（スイス）▽会計　マックス・リンケンバーガー（西ドイツ）▽理事　ウオブ・アッカーマン（オランダ）ヘルマン・ミリアス（東ドイツ）、フランティセク・ボセク（チェコ）、リスト・オルコ（フインランド）、アイナー・アスパーセン（ノルウェー）、フレブルンド・ペダーセン（デンマーク）、イストバン・マダラッツ（ハンガリー）▽技術委員会委員　エミール・ホルル（スイス）

表紙写真募集!!

本誌第59号（11月1日発行）の表紙写真を読者から募ります。題材は10月1日から福井県高浜町で開かれる第23回国民体育大会ハンドボール競技に限ります。10月15日までにキャビネ版以上のサイズ（裏面に対戦チーム名、撮影者名記入）で機関誌編集部までお送り下さい。

ミュンヘンへまず指導陣を確立

本部長に荒川氏　選手強化対策指導委員が内定

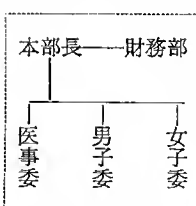
懸案の選手強化対策本部の発足を急ぐ日本協会では、9月12日の月例常務理事会で、組織の骨子と本部員などを決めた。

それによると選手強化対策本部は下掲の図のような構成をとり、本部長には本誌既報のとおり荒川清美理事長が就任、強化指導委員は16名がリストアップされ、男子強化部11、女子強化部5名に分けられた。

医事委員会の主任にはこれまでにも日本協会のドクターをつとめたことのある広田公一氏が決まり、荒川本部長と広田氏の話しあいで、近く医事委員（5～10名）を人選することになっている。

財務部は、強化資金の調達のほか、本部長の助言機関となる。

メンバーは副会長を中心に早急に編成される。



男女強化委員は左表のとおりだが、これら常務理事会の決定は10月3日の全国理事会、4日の全国評議員会（いずれも福井県高浜町で開催の予定）の承認を待って活動を始め、10月中旬に第1回選手強化対策本部会が開かれる予定。

なお、当初の構想に加えられていた企画委、調査資料委（国際、国内の情報収集）などのパートは、初年度は見送られ、来年度以降随時加えて規模を拡大していくことになりそうである。

日本ハンドボール協会
選手強化対策部人事

▼本部長　荒川　清美

▼強化指導委員男子委員

村田　弘
稲石　三二
勝　繁夫
中沢　重夫
若崎　重富
高橋　健夫
竹野　奉昭
北川　勇喜
中江　義雄
高橋　英次
安達　精太

▼同女子委員

近藤　金博
鈴木　義男
井　薫
宮原　俊隆
池田　鉄哉

▼医事委員

広田　公一
ほかのメンバーは人選中

……………………………

▼財務委員

日本協会副会長を中心に近く人選

【解説】選手強化対策本部員がようやく決まった。

荒川本部長一人が指名されただけで4月以来6ヶ月近くたちながらいっこうに具体化されぬばかりか、理事のなかでも「選手強化対策本部は本当にできるの？」といったたよりない声も出はじめていたほどだ。

よく云えば慎重、いじわるく云えば優柔不断なハンドボール界の〃習慣〃のために月日を重ねてしまったわけだが、ともあれミュンヘン・オリンピックまであと4年、その予選ともいえる一九七〇年二月の第7回世界男子7人制選手権まであと1年4ヶ月というところで、頂点強化対策のメドがこれでいちおう立ちそうなのは喜んでよいだろう。

本部員の顔ぶれをみると、前回（昭和42年2月）の世界選手権代表のコーチ団4人（監督・村田弘コーチ・稲石三二、勝繁夫、中沢重夫）がそのまま加わり、若崎重富競技局長が現執行部の代表格で加った。いずれも順当な就任だ。

ほかの6人は埼玉教員クラブ監督高橋健夫氏をはじめ去年と今年の国内優秀チームの監督が選ばれたようだ。いささか事務的な方法のような気もするが、それによって竹野奉昭（大崎電気監督）、安達精太（立教大監督）、中江義雄（同志社大監督）、北川勇喜（日体大監督）、高橋英次（明星高監督）といった若々しい指導者が加ったのは新鮮な印象をうけ、今後の活躍に期待がかけられるのはよい。

ところで初の選手強化対策本部だけに前途に待ちうける難問もまた多そうである。

特に、全日本チーム（選手は未定）をどのように指導していくかその体系、理論――いわゆる「思想の統一」は大テーマだ。

また、既存の技術部各パートとの調整も早い時期にしておかないと今後、混乱を招じる恐れが出てこよう。

スタッフについても、前述したようにトップチームを母体として選こうされた人たちが半数以上おり、母体チームが下降線をたどった場合、その資格をうんぬんされるような〃雑音〃が起きてくるともかぎらない。

トップレベルの強化などというものは、おいそれとできるものではなし、一気にミュンヘンまでこのスタッフで突っ走るぐらいの覚悟と外部の信頼・協力が望まれよう。

この強化対策本部の成否は、むしろそうした〃周囲（全国）の理解度〃にかけられているといってもよい。

女子は、今冬の世界選手権が流会し、ミュンヘンオリンピックでの実施も楽観を許さぬ情勢だけに5人の小人数、それも実業団監督が並べられただけだ。目標が具体化するまでは、とりあえず女子の頂点強化は、各実業団それぞれによって行って欲しいという日本協会の〃暗黙の〃意向がこのあたりにうかがわれる。なお、男女とも〃選手〃については具体的な発表は行われていない。（杉）

〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃

スポーツ募金を実施

体協では、このほどスポーツ振興資金財団が調達する資金の一部として、各加盟団体が競技会を実施する際などの入場料金に10円を加えてもらうよう要請した。

この募金による収入はメキシコオリンピック、札幌冬季オリンピック準備をはじめスポーツ振興諸事業にまわされるが、日本ハンドボール協会でも近く、協力の方法について協議する。

全国関係者のかたがたも、試合場などで、「スポーツ募金」と書かれた黄色い箱を持った係員を見ましたら是非御助力下さい。

要望強い日本女子リーグの開催

設立準備委 第1回答申書を提出

懸案となっている日本ハンドボールリーグ（仮称）の開催について、日本協会では2月の全国評議員会で全日本実業団連盟にこの問題を一任、同連盟では設立準備委員会を設けて4月以来の各層から多くのデータを収集していたが、このほどまとまり「答申白書」として実連を通じて日本協会常務理事会に提出した。

同会では、この答申白書にもとずいた細部の検討を事業局企画委員会に委せることになり、同委員会では全日本各選手権大会の改訂案（修正案）とともにこの問題を協議、遅くとも年内には一応の結論を出す予定である。

本誌では、設立準備委代表として答申白書をまとめられた田中滋章氏（日本協会常務理事・日本実連理事）にこれまでの経過を中心に別掲のように寄稿願ったが、中央における関係者が比較的慎重な態度を示しているのに対し、地方球界関係者は開催を積極的に希望しており、特に女子はかなり実現の色が濃くなって来ているようだ。なお、現在、日本リーグを実施しているのは5競技である。

日本リーグ設立答申白書とその動向……田中滋章

我々準備委は関係諸兄にアンケートの回答を求め、それにより第一回答申白書なるものを作成し先ごろ日本協会常務理事会に提出した。常務理事会は更に検討のため本案を企画委員会（委員長、的場益雄）に付託し、他大会の整備案と共に再び提出されることになろう。

アンケートの回答を見て痛切に感じられたのは関係各位が非常に異った意見を持っているという事、特に中央球界関係者と地方球界関係者との相違がはっきり見られるので、中央の指導者はもっとキメの細かい施策を必要とする事が分る。

しかし大ざっぱにみて女子リーグ開催を望む声は8～9割に達するが、男子の場合は実業団だけでの日本リーグに殆どの人が疑問を感じ、実連内部だけの強化策を期待しているようである。

世界女子7人制選手権が中止と決った今、何か機会を失った感があるが、我々の答申白書も女子開催、男子見送り（実連強化策期待）を結論とした。

この結論を導くために我々が最も重視した点はリーグ開催による効果と懸念面がどうかという事である。

効果としては ①目標とする最高の大会の統一 ②トップチームの激突による頂点強化 ③地方開催による地方の普及と向上 ④リーグ出場チームが他の全日本大会に出場しない事により崩壊寸前の一般女子の立直り及び弱体実業団チームの意欲強化などが挙げられる。

一方最も懸念される点は、果して球界一体となっての盛り上りが期待できるかという事、即ち日本協会の運営力及び参加チームの積極性が充分であるかどうか。これに日本リーグの成否がかけられる。しかし努力によりぜひ実現させて貰いたいものである。

アンケート回答には多様なご意見があり参考となったが、これは企画委で今後も引続き参考にされると思う。ここで改めて回答をお寄せ下さった方に謝意を表します。

尚次回常務理事会に提出された際どうなるか判らないが、賛意が得られれば我々準備委員は各オーナーの説得、スケジュールの作成など具体案を練り再度答申をしたいと考えています。

今後もご協力の程お願いいたします。（日本リーグ設立準備委員）

男子の全国リーグ

全日本実連で開催

全日本実業団連盟は9月7日東京で理事会を開き、席上田中常務理事から提案された男子実業団リーグ（仮称）の開催を基本的に了承、来年度からの実行を目標に細部の検討を急ぐことになった。

これは、今夏の第20回全日本総合選手権で大崎電気（埼玉・準優勝）を除く実業団チームがすべて1回戦で敗退した事実を重視し、この際、実連自体が徹底した強化策を採るべきだという意見から生まれたものである。田中常務理事の提案要旨は次のとおり。

一、実業団男子のうち、会社自体が強化に積極的なチームと、そうでない同好会的チームをA、B2ブロック（仮称）に思い切って分ける。

一、A・Bブロックは連盟登録金額も異なるようにする。

一、会社側の全面的支援をうけているチームのうち上位8チーム（この選考は43年2月の全日本実業団選手権で行う）によって年間1～2回総当りのリーグ戦を週末各チームの地元で行い、互いの強化を企る。

一、全日本実業団選手権はこれまでどおり開くが、A・Bブロックに分かれてトーナメントを行い、前記のリーグ戦に出場しているチームは出場させない。

ただし、全日本実業団選手権Aブロックトーナメントの優勝チームとリーグ戦下位チームは入れ替え戦を行う。

× ×

全日本実連では実現までの課題としてAブロック「会社側が強化に積極的なチーム」「全面的支援をしているチーム」の実数が今のところはっきりしないためリーグ戦の規模が定まらないこと、リーグ参加チーム以外にAブロック該当チームが少ない場合は全日本実業団選手権をブロックに分けず混合で行うことなどをさらに堀り下げなければならないとしている。

第23回国体展望

最強布陣で初の激突（一般女子）

予断許さぬ高校男子と教員

第23回国民体育大会ハンドボール競技は、10月1日に開始式、10月2日から6日まで6日間の日程で福井県高浜町に全国の代表5部門72チームが参加して開かれる。

組み合せは8月29日東京で別表のように決められたが、注目されるのは、世界選手権の流会（詳報2頁）によって一般女子の各チームから全日本代表選手が出場することで、今シーズンはじめて強力布陣をファンの前にみせる。

部門別の展望を試みてみよう。

一般男子（30チーム）

8連勝を狙う大崎電気（埼玉）を優勝候補の一番手にあげるのが順当だろう。

竹野、井上、西村、GK福本らの動きが落ちたなどといわれながら、近藤、飯田、片山、籏野、太田らの若い力をうまく活かし、全日本総合（8月・長崎）でも決勝まで進んでいる。

まだまだ社会人球界での最高位はゆるぎそうにない。

招待コーチ、N・ネデフ氏（ルーマニア）から学んだ技術をどのように消化して発揮するかも興味だ。（8月、日新製鋼から転籍した近森は規定でこの大会には出られない。）

大崎を追うのは住友化学（愛媛）、三景（東京）、全神奈川の3チームだろう。

住友化学は、曲者の揃ったBブロックにいるが、順当なら準決勝で大崎と顔を合わせる。加藤、神代、落合、白石、GK季原らでどこまで食い下るかみもの。年々、大崎との差をつめている努力はたいしたものだ。大崎のペースに誘いこまれねば〝あるいは〟の期待がかけられる。

三景は江名、尾形、竹村のリードで内藤、高梨ら新人が存分に力をふるっている。榊の成長も大きい。関東選手権（8月・東京）では本調子と云えなかったが、全日本総合で芝浦工大を苦しめた一戦をみても、その力を高く評価しなければならない。

全神奈川は、昨年後半戦の活躍で、すっかり自信と地力をつけ、今年も関東選手権では大崎電気に18—20だ。米沢、安達弟、池田、永嶋、正本、GK青木らのセットプレーは鮮やかで、準決勝に予想される対三景戦は大会屈指の好勝負となろうし、勝者がそのまま余勢をかって優勝を遂げることも夢ではない。

ダークホースは地元の北陸電力（福井）を筆頭にAOK栃木（栃木）、奈良ク（奈良）、全京都、常盤工業（岐阜）、塩山ク（山梨）、三菱レイヨン（広島）らである。

中でも常盤は、山田の巧技を軸に高橋、桃井、GK渡辺ら攻守にバランスがとれている。

AOK栃木は関東のクラブ界にあっては今シーズン出色の活躍を示しているし、鳥井を軸とした奈良ク、ベテラン沖重の相変らず元気なプレーと田中、兼森らの攻撃力を誇る三菱レイヨン、守本、山口、桑山ら関西学生をOBを中心とした全京都などは上位チームにとってもかなりうるさい存在になるだろう。

熊本ク（熊本）、氷見ク（富山）、富士レジン（兵庫）、全静岡らもまとまりのある攻守を誇るが、序盤で強敵と当ったり、星をつぶし合うクジ運となっている。

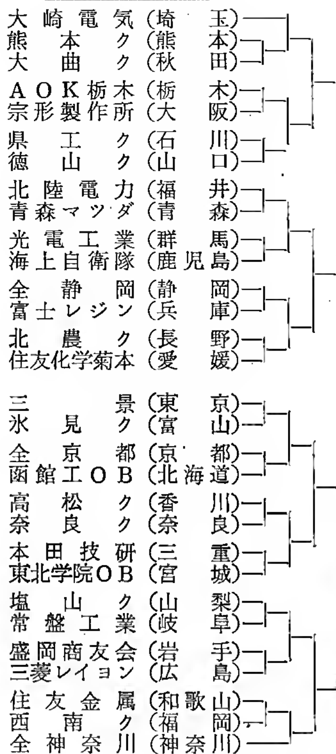
初出場組では激戦の九州を勝ち抜いた海上自衛隊（鹿児島）、東北から初の実業団代表となった青森マツダ（青森）がどこまでやるか注目される。

ところで、女子の一般クラブの衰退に引きかえ男子の最近は苦しい条件が増大されているにもかかわらずむしろOBの結集によって活気づいているようだ。

全国大会へ進出する道はせばめられているだけに国体はクラブのメンバーにとっていまや唯一の〝檜舞台〟なのである。

しかし、今回の組み合せをみると、ベストエイトの半数以上を実業団に占められてしまいそうだ。実業団の抬頭に水をさすものではないが（クラブ的同士の集りによる実業団も多いのだから…）なんともさびしい気がしてならない。

（杉山　茂）



一般女子　（12チーム）

○……順当にいって、全日本総合の四強が準決勝でぶつかることになろう。どのブロックをとってみても、四強の堅城を崩すことのできるチームは見当らない。

期待できるのは、三菱鉛筆（神奈川）と当ることになるブラザー工業（愛知）ぐらい。クラブ勢では、日体OG主力の大阪スターズが大洋に、全福井がどこまで田村紡（三重）にくい下るかだ。愛媛クは、元愛知紡組が規定にしばられて出場できず多くは望めそうにない。全岩手、全広島も好選手はいるが練習量に不安がある。準決勝は田村紡――三菱鉛筆、大洋デパート（熊本）大崎電気（埼玉）になることはまず間違いあるまい。

前者は世界選手権代表がそのまま出場することになる田村紡が、チームの安定力に欠ける三菱を降し決勝に進むと見るのが順当なところである。

後者は大洋デパートが全日本総合優勝の余勢をかって、大崎を降すか、大崎が全日本選手団から帰る4選手と優秀新人でいかにうまくコンビを作りあげ、大洋に伍するかという点に焦点がしぼられよう。

波乱なく進めば、田村紡の連ばということになろうが、優秀な新人を多数有する三菱、大崎、全日本総合にきわめて安定した力を見せた大洋。何れも実力は紙一重。接戦につぐ接戦になり、その日の調子にかなり左右されることになろう。

今シーズン初のベストメンバーによる激突でありレベルの高い試合が期待される。（藤本　強）

一般女子

田村紡（三重）
愛媛ク（愛媛）
全福井（福井）
ブラザー工業（愛知）
全北海道（北海道）
三菱鉛筆（神奈川）
大崎電気（埼玉）
全岩手（岩手）
全広島（広島）
氷見ク（富山）
大阪スターズ（大阪）
大洋デパート（熊本）

再び埼玉――大阪の対決？

教員　（10チーム）

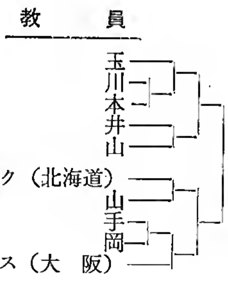
八月末の全日本教職員大会では、おおかたの予想通り、埼玉教員――大阪イーグルスの戦いとなった。今回も結局はその組み合せになることは確実であろう。

Aブロックでは、埼玉教員と準決勝を争うのは、福井教員になると考えられるが、埼玉の北井・結城を中心とした攻撃を防ぐことは困難だと思う。他のチームがいかに埼玉に迫るか、そこに問題があろう。

Bブロックも大阪イーグルスの決勝をはばむチームは見当らない。他のチームはよほど調子を出さない限り大差になろう。イーグルスは東・井上らのベテランがやや絶頂期をすぎ、今年入った福井、樫塚の両新人がいまだチームに完全にとけこんでいないところをつかれ、埼玉に苦杯をきっしたがまだまだそのチーム力は最上位にランクされる。

埼玉が全日本教職員の好調を持続して二冠を獲得するか、イーグルスが雪じょくをなしとげるか興味深い。

その鍵は、今年度の新人をいかに巧くチームの中にとけこませるかという点にかかってこよう。ダークホースは熊本、岩手。（藤本　強）

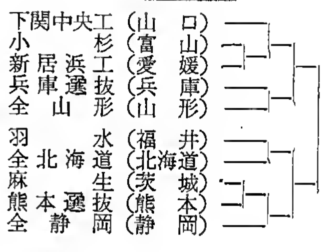


下関中央工、麻生ら単独校――選抜の争い

高校男子　（10チーム）

本年より単独、選抜どちらでもよくなり、5チームづつとなった。選抜が勝つか単独が勝つか初のケースだけに一回戦から期待と興味の持てる好試合が展開されるだろう。過去3年間の優勝チームはその年のインターハイの優勝校である。これは優勝の自信と余裕からくるものである。本年インターハイ優勝の下関中央工（山口）はチームワークよく攻守に秀れてまとまりがあり特にコンビネイションプレーがよいので本命と云える。一番の難関と云えば二回戦の新居浜工（愛媛）である。新居浜工はスピードがあり特に足で攪乱すれば充分勝ちめはある。Bブロックはインターハイでスケールの大きいハンドボールをした中大附属（東京）を破って進出してきた麻生（茨城）が体格に恵まれその力強さは高く評価されている。又熊本市立商（熊本）・清水市立商（静岡）を主体とした両県選抜チームは体格、ロングシュート、ポストプレーの不備を補強しているので未知だがコンビネーションがうまく行けば立派に戦かえる。地元の羽水（福井）も力をあげてきているのでプラスアルファーが発揮できれば面白く、このゾーンは全く予想がつかない。結局下関中央工を追う単独の新居浜工、麻生か選抜の熊本、静岡といったところといえる。

本年よりチーム形成が変っただけに勝敗如何がこんごに影響するといえる。（村田　弘）

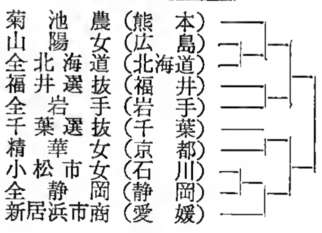


菊池農の〝2冠〟有望

高校女子　（10チーム）

男子同よう出場チームは混成チーム五、単独校チームが五と五分で、単独か混成か今後の国体出場チームの編成を問う興味深い大会になると思われる。

女子チームでは好、不調の波が



多くただささえ混戦、接戦の多い上に混成チームがどれだけ纒まりを見せるか、又単独チームが如何に調子の波に乗って戦うか、各チームの健斗を期待したい。

Aブロックは菊池農（熊本）の実力が抜群であり。主将水上を中心に大型攻撃陣は良く走り良く投げ決勝進出は間違いない所と思う。山陽女子（広島）は本地を中心によくまとまっているのが強味であるが、北海道チーム単独ならば山陽有利と見られるが選抜によって攻撃に厚さを増した北海道互格と見たい。地元福井選抜は高志高中心のチームで小型でよくまとまり練習量も充分、準決勝進出は堅い。Bブロックは新居浜商（愛媛）の加藤、山木の俊足コンビによる得点能力は優秀で全員良く走りキビキビしたプレーは観衆を湧かす事と思われる。

千葉選抜、精華女（京都）共に実力をもちながら好、不調の波が激しく昭和学院を主力とする千葉選抜がやや優勢と思われる。清水商を主体とする全静岡は速攻に今一つ欠ける所があるが、攻撃力に巾ができ、ブロックとポストに得点能力がました。小松市女（石川）も苦しいだろう。順当なら新居浜商との準決勝になりそうだ。

決勝は順当に行けば菊池農対新居浜商が予想されるが、共に相手を知りつくした仲。強力なシュート力を持つ大型の菊池に対し、ややガードの弱い小型の新居浜だが接戦が予想される。順当に行けば菊池農とみるが調子の波に乗れば新居浜商にも勝利の女神がほほえむ事と思われる。各チームの健斗を期待したい。

（山田仁止）

国体ブロック予選記録

‖太字は代表‖

○……一般男子……○

▽…北海道

函館工OB　30－21　室蘭ク

▽…東北

▽第1～第3代表決定戦

東北学院OB（宮城）　13－11　大曲ク（秋田）

青森マツダ（青森）　15－14　寒河江ク（山形）

盛岡商友会（岩手）　27－22　SGク（福島）

▽第4代表決定戦

大曲ク　18－9　寒河江ク

▽…関東

▽第1～第4代表決定戦

大崎電気（埼玉）　38－2　佐原ク（千葉）

塩山ク（山梨）　24－21　光電工業（群馬）

栃木AOK（栃木）　16－13　三景（東京）

全神奈川（神奈川）　21－11　自衛隊勝田（茨城）

▽第5、第6代表決定戦、

三景　26－22　自衛隊勝田

光電工業　25－5　佐原ク

▽…北信越

▽第1、第2代表決定戦

氷見ク（富山）　20－15　北農ク（長野）

石川県工ク（石川）　15－7　柏崎ク（新潟）

▽第3代表決定戦

北農ク　23－9　柏崎ク

▽…東海

▽第1、第2代表決定戦

本田技研（三重）　15－11　桜丘会（愛知）

常盤工業（岐阜）　17－10　全静岡（静岡）

▽第3代表決定戦

全静岡　14－11　桜丘会

▽…近畿

▽第1～第3代表決定戦

住友金属（和歌山）　26－17　滋賀ウルフ（滋賀）

富士レジン（兵庫）　24－22　全京都（京都）

奈良ク（奈良）　27－14　宗形製作所（大阪）

▽第4、第5代表決定リーグ

全京都　25－8　滋賀ウルフ

全京都　22－9　宗形製作所

宗形製作所　29－14　滋賀ウルフ

その結果　**全京都、宗形製作所**が代表

▽…中国

▽第1、第2代表決定戦

徳山ク（山口）　24－9　境市役所（島根）

三菱レ大竹（広島）　35－19　倉敷工OB（岡山）

▽…四国

▽第1、第2代表決定リーグ

住友化学菊本（愛媛）　43－4　土佐高OB（高知）

高松ク（香川）　28－17　土佐高OB

住友化学菊本　37－13　高松ク

この結果　**住友化学菊本、高松ク**が代表

▽…九州

▽第1～第3代表決定リーグ

熊本ク（熊本）　25－20　鹿屋海上自衛隊（鹿児島）

西南ク（福岡）　17（分）17　熊本ク

大分ク（大分）　21－18　佐世保ク（長崎）

大分ク　10（分）10　西南ク

佐世保ク　18－13　鹿屋海上自衛隊

熊本ク　25－14　大分ク

西南ク　15－4　佐世保ク

鹿屋海上自衛隊　17－15　大分ク

熊本ク　28－20　佐世保ク

鹿屋海上自衛隊　14－8　西南ク

この結果、**熊本ク、西南ク、鹿屋海上自衛隊**が代表

○……一般女子……○

▽…北海道

室蘭ク　13－7　函館ク

▽…東北

全岩手（岩手）　13－9　全和洋（秋田）

▽…関東

▽第1、第2代表決定戦

大崎電気（埼玉）　28－0　梨窓ク（山梨）

三菱鉛筆（神奈川）　9－7　東京重機（東京）

▽…北信越

氷見ク（富山）　17－8　小諸ク（長野）

▽…近畿

大阪スターズが全兵庫を22－5、全京都を22－7で破り代表に決定

▽…東海

リーグ戦の結果、田村紡（三重）**ブラザー工業**（愛知）が代表に決定。試合記録は本誌31頁「各地の記録・東海選手権一般女子」参照

▽…中国

全広島（広島）　11－10　徳山ク（山口）

▽…四国

愛媛ク（愛媛）　38－8　三本松OG（香川）

▽…九州

エントリーが**大洋デパート**（熊本）のみのため同チームを代表に認定。

☆☆☆☆☆☆☆

海外トピックス

藤本　強

GW・ダンケルセン第一回11人制ヨーロッパ杯を獲得す

昨冬、西ドイツのミュンヘンに於いて開催を企図された男子11人制ヨーロッパ杯争奪第1回選手権大会は6月1・2日の両日オーストリーのリンツで開かれた。

大会は、西ドイツ、オーストリー、スイス、オランダの4ケ国の1967年のチャンピオンチームを集め、総当りリーグ戦で行なわれ、西ドイツのGW・ダンケルセンが圧倒的強さで初優勝した。

ユニオン・エーデルワイス・リンツ（オーストリー）　16（9－2、7－6）8　オリンピア・ヘンゲロ（オランダ）
グリュン・ヴァイス・ダンケルセン（西ドイツ）　15（10－6、5－2）8　TV・ズール（スイス）
ユニオン・エーデルワイス　5（3－5、2－0）5　TV・ズール
GW・ダンケルセン　25（13－4、12－5）9　オリンピア
TV・ズール　10（5－6、5－2）8　オリンピア
GW・ダンケルセン　19（11－5、8－2）7　ユニオン・エーデルワイス

①GW・ダンケルセン3勝、②ユニオン・エーデルワイス1勝1敗1分（得28失32）、③TV・ズール1勝1敗1分（得23、失28）、④オリンピア・ヘンゲロ3敗

この大会、GWダンケルセンのエース・リヨーブキングが圧倒的な得点（3試合で24点）をあげリーディングゲッターになった。

これを機会に11人制ハンドボールを大いに盛りたてようという動きがこれら諸国の間に生れている西ドイツでは、11人制ハンドボールの人気はまだたいしたものであり、西ドイツ選手権ともなれば数万の観衆を集める。

またシーズン制をしくことによって、良い面が非常に多いことが強調されている。

この大会には、IHF会長ハンス・バウマン氏も列席してこれらの状況をつぶさに観戦した。

一九六九年の男子11人制世界選手権の参加国は、この大会に集った4ケ国、それにポーランドとポルトガルに参加の可能性がある程

○…教員（決勝記録）…○

▽…東北　岩手　24－13　宮城
▽…関東　埼玉　36－16　茨城
▽…北信越　富山　16－15　新潟
▽…東海　静岡　13－12　愛知
▽…近畿　大阪イーグルス　33－19　スワロー兵庫
▽…中国　岡山教員が山口を15－11、広島を26－18で破り代表に決定
▽…四国　香川教員が愛媛を20－13、中村教員ク（高知）を37－15で破り代表に決定
▽…九州　熊本　19－16　福岡

○…高校男子（決勝記録）…○

▽…北海道　地区予選を勝ち抜いた13校によって道予選を行ない函館東が15－7で室蘭工を破り1位となり函館東を中心に全北海道を編成。
▽…東北　大石田（山形）　12－11　大曲（秋田）
▽…関東　麻生（茨城）　17－13　中大附属（東京）
▽…北信越　小杉（富山）　13－9　上田（長野）
▽…東海　全静岡　16－11　加納（岐阜）
▽…近畿　兵庫選抜（兵庫）　18－16　伏見工（京都）
▽…中国
▽中国予選会決勝　広島（広島）　22－19　岡山選抜
▽中国代表決定戦　下関中央工（山口）　13－11　広島
▽…四国　新居浜工（愛媛）　17－5　幡多農工（高知）
▽…九州　熊本選抜（熊本）　15－10　福岡選抜（福岡）

○…高校女子（決勝記録）…○

▽…北海道　地区予選を勝ち抜いた9校によって道予選を行ない室蘭商が17－7で室蘭東を破り1位となり、室蘭商を中心に全北海道を編成。
▽…東北　全岩手（岩手）　15－3　小高農（福島）
▽…関東　千葉選抜（千葉）　8－4　平塚江南（神奈川）
▽…北信越　小松市女（石川）　5－4　小諸商（長野）
▽…東海　全静岡（静岡）　14－8　名女商（愛知）
▽…近畿　精華女（京都）　12－3　八幡商（滋賀）
▽…中国　山陽女（広島）　14－3　岡山選抜
▽…四国　新居浜商（愛媛）　9－3　三本松（香川）
▽…九州　菊池農（熊本）　15－6　島原農（長崎）

○…開催地（福井県）…○

▽一般男子決勝　北陸電力　16－14　福井一般選抜
▽同女子、全福井を認定
▽教員、全福井を編成
▽高校男子決勝　羽水　16－7　若狭
▽同女子決勝　高志　4－3　福井商

杉木（ブラザー工業）選手が輪禍

国体一般女子愛知県代表ブラザー工業のGK杉木洋子選手は9月9日夜練習からの帰途名古屋市内の横断歩道でわき見運転の乗用車にはねられ頭などを打って一ケ月のけがをした。

度で、ごく小規模な大会になることが予想されるが、これら諸国の中で、11人制がなくなることは、現在では考えられず、したがって11人制の世界選手権、ヨーロッパ杯もずっと存続していく可能性が強い。

シャルジリス・カウナスまたも優勝

ソ連女子国内リーグ

現在のヨーロッパ杯チャンピオンチーム、シャルジリス・カウナス（ソ連）は今年度の国内大会もきわめて快調にとばし、国内選手権を獲得した。

今冬の世界選手権大会には、優勝候補の筆頭にあげられていたソ連女子球界だけに、今回のチェコ問題→世界選手権大会の中止は非常に痛いできごとであろう。

なお、男子のタイトルはツルド・モスクワが握った。

ヘラスが優勝

スウェーデン男子選手権

スウェーデンでは、夏の大会を屋外7人制で行なっている。16チームが参加し、準決勝でフロッタン・カルルスクローナを24—9で破ったヘラス・ストックホルムが決勝では、ハルムスタッツ・HPIFを25—5の大差で敗り、優勝した。

女子は6チームが参加して、スポルト・ゲーテボルグが9—8の少差でボルトン・ストックホルムを破り、10回目のタイトルを獲得した。

バニック、デユクラを破る

チエコ男子選手権

チエコでは、永く男子選手権保持していたデユクラ・プラーグがバニック・カルビーナに破れ、それタイトルをついに奪われた。

思わぬ結果にチェコのファンは湧きに湧いたと伝えられ、バニックの新鮮な進出は、今年のヨーロッパ・カップでも話題になるだろうと期待されていたのだが、同大会も残念ながら流会となってしまったの惜しい。

スペインーアイスランド戦

今年の室内シーズンのトップを切ってスペインはアイスランドナショナルチームをマドリッドなどに招いて2試合を行なった。その結果、第1戦は29—17でスペイン、第2戦は18—17でアイスランドがそれぞれ勝った。

イギリスにも普及のきざし

ハンドボールの故郷・ヨーロッパにありながら普及のきわめて遅れていたイギリスにも、イタリアに続いて普及のきざしがやっと見えはじめた。

イタリアに協会が設立され、西ヨーロッパで残されているのは僅かにイギリスだけとなり、この国にハンドボールが普及しないのを淋しがっていた関係者もそのきざしがやっと見え始めたことを非常に喜んでいる。

実際に活動を始めるのは先になろうが、ミュンヘン・オリンピックをチャンスに各国にハンドボールが次々に普及していくことは、きわめて喜ばしいことである。アジアにも多いに普及させて行くことが今後の課題となろう。

☆★☆★☆★☆ IHF公報から

―久田　暁―

IHF公報一九六八年八月号（第73号）から主なニュースを拾い出してみよう。

×　×　×

一九七〇年の世界選手権まで、あと一年五ケ月余りとなり、各国の強化もいちだんと激しくなっているようだ。

すでに本誌でもこれまでに再三スター選手の移籍などが伝えられているが、最近はコーチの招へいが活発である。

まずオランダではチエコから近代ハンドボールをもっともよく知っているコーチの一人といわれるヤロスラフ・ムラス氏を招くことに決めた。

また、デユクラ・プラーグ（チエコ）の主力で、ドリブルの名手として人気のあったマレス選手がアイスランドチームの指導に出かけることも決まったようだ。

日本にもおなじみのルーマニアのクンスト氏（IHF技術委員）も、ほとんど母国に落ち着けぬほど各国から招待されているようだが、8月にはスウェーデンへ出向いた。

チエコを世界選手権で優勝に導いたケーニッヒ氏が西ドイツシュタインバッハ体育学校で行われたトレーニング講習会に出席し、講演を行ったり、指導したりしている。

優秀チームの影に名コーチありは、スポーツ界の金言だが、ヨーロッパ各国の動向を見ていると、自国のコーチ制度確立もさることながら、外国の有名、有能コーチをためらわず招いて指導をうける姿勢が積極的なのは大いに考えさせられることだ

ハンガリーが12人制提案？

ヨーロッパの一部の国における11人制（フィールド・ハンドボール）の人気はいぜん根強いものがあり前掲（海外トピックス）のように今年6月には初のヨーロッパカップまで行われているが、ハンガリーでは11人制に代る12人制ハンドボールの実施を研究中だ。

試案によるとGKを2名にしてゴールを守らせようというもので近くIHFに採用を提案したいとたいへんな気の入れようである。

（日本協会常務理事）

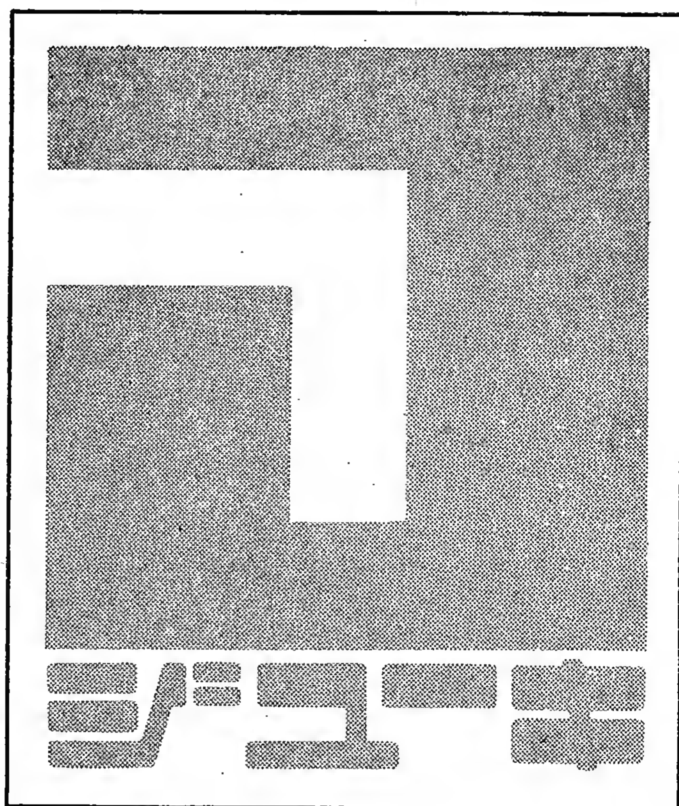
本誌54号「海外トピックス」欄で、ルーマニアのハンス・モーゼル選手がスウェーデンに転籍したというニュースを掲載しましたが今般、ネデフ氏（ルーマニア・コーチ）の来日によってその事実がないことが判りました。モーゼル選手は約6ケ月間スウェーデンで指導を行ったのち、現在はルーマニアへ戻っているとのことです。

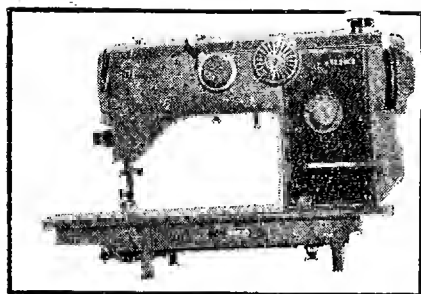
おことわり

本誌第49号から連載しておりました松本良三氏（日本協会参与、元日本協会理事長）執筆による「日本ハンドボール協会創始期の思い出」は前号「平沼会長の思い出」をもちまして完結いたしました。永のいあいだ御愛読を感謝いたします

（編集部）

ミシンはマークで
お選び下さい





*HZD－956*型
ダイカスト・フルオートジグザグ

東京重機工業株式会社

本社工場　東京都調布市国領町８丁目２番地ノ１電話（480）1111番（大代表）

東軍、西軍を押し切り4連勝
初の女子対抗は関東選抜が制勝

全日本学生選抜

学生界のトッププレイヤーによる第18回全日本学生選抜東西対抗戦は9月15日名古屋の愛知県体育館に三千近いファンを集めて開かれた。

試合は、予想どおり全日本学生の上位校選手で占めた東軍が前半なかばから多彩な攻撃で主導権を握り、後半の西軍の追撃を阻んで制勝した。

東軍はこれで4年連続優勝、通算成績は東軍11勝、西軍7勝とかわった。

なお、この試合に先立って行われた男子の関東学連選抜ー東海・関西選抜軍の対抗戦は、地力にまさる関東が後半に勝負を決め快勝した。

東日本学生選抜軍 23（12—7、11—8）15 西日本学生選抜軍

得	【東日本学生】		【西日本学生】	得
0	本田（日体大）	GK	西口（関大）	0
3	早川（日体大）	FP	松浦（同志社大）	2
1	森（日体大）	FP	宮永（関大）	1
4	高橋（日体大）	FP	舟木（同志社大）	0
5	野田（立教）	FP	松田（関大）	1
8	藤中（日体大）	FP	桐（大阪経大）	3
0	谷藤（日体大）	FP	中井（同志社大）	4
23		計		15
（1）		7MT		（3）

主審・西川（名城大出）

▼交代選手【東日本】▽GK上野（東京教大）、▽FP喜田（中央）、石井（法政）得1、黒川（中京大）、加藤（名古屋大）、今野（東北学院）、江尻（富山大）得1

【西日本】▽GK藤本（大阪経大）▽FP西野（関学）得1、中田（山口大）、町田（同志社大）得2、中野（同志社大）得1、阪野（同志社大）、西浦（岡山大）安部（西南学院）

【後記】木野、北村、近森、山田、飯田らが学窓を去って、今年の学生界は〝スター不足〟という声が強いが、たしかに両軍を見ているとその感は否めない。

東軍は全日本学生優勝の日体勢に野田（立教）を加えてのスタート。西軍は同志社、関大、大阪経大の混成でまず対抗した。

○……このところ3連敗の西軍は今年は是非とも勝ちたいところで東軍の戦法に対する研究もなかなか積まれているようであった。

しかし先手は東軍がとった。4分藤中、5分高橋（ともに日体）で2—0。西軍は6分7MTを中井（同志社）が決めたが、東軍も9分（7MT）、10分と高橋が連取して、早くも優位に立った。

○……西軍にもチャンスはあったがシュートの甘さと、東軍GK本田（日体）の美技に阻まれ活かすことが出来ない。

15分をすぎるあたりから試合はやや中だるみ。両軍ともミスパスが目立ち〝混成〟を克し切れない感じだったがトッププレイヤーの集りと銘打つ以上いささかこれはお粗末で、わずかに東軍・藤中の力感あふれたロングシュートと本田の活躍が光彩を放っていただけだった。

本田が攻撃面でも再三好パスを送って味方にチャンスをもたらしていたのはみごと。本田技研（三重）在籍時代、この体育館でプレーしていた頃よりいちだんと成長した姿を東海のファンの前に示した。

○……前半25分9—6のあと東軍は3点、西軍は1点。この5分間の攻防はその後の展開に大きく作用した。

東軍はこれでいちおう安全圏、西軍には重たく「5点差」がのしかかったに違いない。

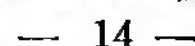
後半に入って西軍は松浦（同志社）、西野（関学）の健斗で8分10—14とわずかに反撃の気勢を示したが、10分をすぎる頃から元気をなくし、せっかく攻めこんでもGK上野（東京教大）におさえられた。

逆に東軍は野田が本領を発揮して加点。20分18—12、25分20—13と点差を開いた。

○……勝った東軍もあまりシャープなプレーが見えず、内容的にももりあがりが少かった。後半は尻つぼみに終ったがなんとか勝とうとした西軍のプレーにむしろ見るべきものがあったとするOBもいた。

チームとしての練習が充分にできず、コンビネーションの調整など望むべくもないのだが、そうなると華やかな個人技が欲しくなる。

今年の学生界は好チームは多いが、これはといった選手が少ないという定評を裏づけたような一戦



であった。なお監督は東軍が北川（日体大監督）、西軍が中江（同志社大監督）だった。（駒沢球治郎）

主審の目

前半、東軍はGK本田が活躍し、堅い守りと巧い球出しを示し、高橋の速攻、ポスト、藤中のロングシュートなどで着実に点をかせぐ。

一方、西軍も7MTをはさんで桐のロングシュートなどで2点差までこぎつけたが、東軍はがっちり主導権を握って5点差をつけ前半を終わる。

後半に入り西軍は松浦、舟木のロング、東軍は野田、早川らの個人プレーを活かした得点で互角に進んだが5点の差は縮らず、攻撃面での個人技と本田、上野のGK陣にまさる攻東軍が順当な勝ちをおさめた

（西川勤也）

東海・関西連合の健斗実らず

▽女子対抗戦

関東 16（7—6、9—4）10 東海・関西連合

得	【関東】		【東海・関西】	得
0	小野里（日体大）	GK	北岡（中京女大）	0
1	川口（日体大）	FP	国沢（中京女大）	0
0	原（日体大）	FP	砂浜（中京大）	1
2	熊谷（東女体大）	FP	森（中京大）	4
0	浅見（東女体大）	FP	坂本（中京大）	1
6	石井（日体大）	FP	安田（中京大）	2
0	古川（日体大）	FP	石山（中京大）	1
16		計		10
（2）		7MT		（2）

主審・横井（中京大出）

▼交代選手【関東】▽GK 太田（日女体大）▽FP 沢谷（日体大）津熊（日体大）得1、中村（日体大）、姫野（東女体大）得4 高橋（東女体大）得2【東海・関西連合】▽GK 佐野（中京大）▽FP 都築（中京女大）鈴木（中京女大）、小松（中京女大）、大島（大阪体大）得1、森崎（大阪体大）、大崎（中京女大）、野口（中京大）

【後記】この試合は成長を伝えられる女子学生界の実力を測る一つの好機であった。

試合は予想どおり、常勝・日体大を主力とした関東が、立ちあがり固さのとれない東海・関西連合をついて速攻を決め優位に立った。

○…乱調から得点機のなかった東海・関西連合はリードを許してかえって落ち着きをとりもどし、森（中京大）の好技を軸に反撃、タイスコアに追いつく健斗を示した。

しかし、関東も東女体大の1年生・姫野が新人ばなれした巧技を見せて追加得点をあげ1点の差をつけて前半を終はった。

○……勝負のかかった後半、反撃が期待された東海・関西連合に疲れが見えたのに対し、関東は石井原（ともに日体大）を中心に、相手のパスを出足よくカットしては一気に攻めこんだ。セットプレーも日体大—東女体大の両校選手の呼吸がうまく合わされて活き、着実に得点して差を開いて、そのまま押し切った。

○……初の学連対抗戦で心配された面も多かったのだが、実業団におされがちな現状に奮起した学生界の意欲が随所に見うけられた一戦で内容的にもかなりまとまりのある改防が見られたのはよかった。来年からは男子同よう「東西対抗」が行われる予定だがこうした催しによって、女子学生選手を刺げきすることが出来れば結構だ。監督は関東が藤原（日体大監督）、関西・東海は宇津野（東海学連審判長）がそれぞれつとめた。

（駒沢）

西会長、学生界の奮起促す

東西対抗戦終了後、愛知県体育館で行われた全国学連役員こん談会で西敏郎会長は特に発言を求め『今日の試合は、日本のトップゾーンと自負する学生界の選抜試合としてはまったくもの足りなかった』と手きびしい批評をくだし、ミュンヘン・オリンピックの主力となるのは現役選手諸君であること、好試合を見る機会に恵れぬ地方のファンを前にして常に最高の内容を示す努力をして欲しい、高校生の観客が多いのだから勝負の厳しさを示すために、気を抜いたプレーや相手の力を計算して試合に臨むような態度は好ましくないといった苦言を述べて学生界の奮起を促した。

東西対抗戦績
（男子・7人制以降）

第13回	（昭38）	東27—13西
第14回		西29—23東
第15回		東26—24西
第16回		東26—22西
第17回		東27—17西
第18回		東23—15西

（参考）11人制成績　両軍6勝6敗

11月23日に東日本学生

東日本学生連盟（東北北海道、関東、北信越、東海）では今年の東日本学生選手権を11月23日駒沢体育館で行うと発表した。

同選手権はこれまで全日本学生王座決定戦の東日本予選を兼ねて開かれていたもので王座廃会の来年度以降も継続されるかどうかは未定。

『正しく速く強く』

ネデフ（ルーマニア）コーチの指導を見る

〇……都塵からはなれた澄んだ空気、緑の木立ち、芝生のスタンドに囲れたアンツーカーのハンドボール場2面と点在するテニスコート、野球場、バレーコート…。

ただでさえ欧州ムードの大崎電気埼玉工場の運動場に、うすねずみ色のスポーツ帽をかぶり、白いシャツ、黒いトランクス、水色のソックスに赤いスポーツシューズ酒落れたサングラスをかけた色白のニコライ・ネデフさんが立つとその雰囲気はいっそう〝ヨーロッパ的〟である。

〇……大崎電気に招かれて9月4日に来日したネデフさんはルーマニアナショナルチームの女子ヘッドコーチ兼男子コーチという要職にあり、おなじみのイオン・クンスト氏（昭和35年ルーマニア選抜軍を卒いて来日、現IHF技術委員）の片腕といわれる人だ。

本職はルーマニア〝国家スポーツトレーナー〟、来日中に40回目の誕生日を迎え、今や油が乗り切った指導者という印象をうける。

〇……大崎電気では、9月末までの1ケ月、一切の指導をネデフさんにまかせ、彼の建てたスケジュールにしたがって練習し、福井国体に臨む方針だが、3時間の練習の三分の一近くは基礎技術、基礎体力の指導にあてられている。

これには選手も面くらったようだ。ベテランの竹野（兼監督）、福本、井上選手らは「体が痛い痛い」とまるで春さきの合宿のようなしかめ面だ。

「やっている時はそうでもないのだが、あとになるとそれがきいてくる」（福本選手）というその練習法は、走りながら前屈や腕の回施、それに腿（もも）のひきつけや柔軟体操がはさみこまれる。

〇……第1日の練習を終わってネデフさんは「男女とも腕の力が弱い」と批判して、2日目からは腕立伏せや二人一組による腕の押し合い（手四つ）が加えられるようになった。

さらにシュート練習としてハーフラインの3メートルほど手前からのスタンデイング（ステップ）シュートが課せられた。もちろんGKがつく。近藤、飯田、近森、旗野らアタッカーとしてAクラスの連中もさすがにゴールすることはできない。

「攻撃4期論」など

～ネデフ氏が講習会～

日本協会は9月8日大崎電気の招待で来日中のルーマニアナショナルチームコーチ、ニコライ、ネデフ氏を講師とする講習会を埼玉県入間郡の大崎電気で開催した。

ネデフ氏は現在ヨーロッパで行なわれているオーソドックスな理論を中心として講議した。

注目されたのは「攻撃」を4時期にわける考え方である。

▽第一期　反撃第一期。カット、キーパーボールからの二・三人による第一線の速攻

▽第二期　反撃第二期。第一期の速攻で崩せなかった時に行なう、第二線の速攻、守備陣が整っていない間であるから、攻撃は大いに成功する。

▽第三期　準備期。第一期、第二期の攻撃で成功しなかった場合、または速攻ができなかった場合、まず、攻撃陣形を整えるため、それぞれの位置に選手を配し、互いのパスを繰返し、次の第四期の準備をする。

▽第四期　得点期。第三期の準備ののち、いよいよ、フォーメーションを使っての攻撃に入ることになる。これでシュートができなかった場合、決してボールを相手に渡たさず第三期にもどり、攻撃をたてなおす、というものである。

午後の実地指導（大崎電気男子）ではランニング、基礎動作が数多くもりこまれ、守備では、相手に対するツメとそのカバーが徹底的に反復され攻撃の練習としては、サイドと浮いた位置に選手を配し、フォーメーションを想定した上のパスがかなりの時間をかけて行なわれた。その中では、ハンドボールのフォーメーションにおいては、種々の変化が相手の出方で行なわなければならないことが強調された（たとえば一人がブロックに入ったが、シュートができなかった場合には、ブロックに入った選手はすぐにブロックを外し、自らシューターになるように動く、あるいはブロックに入ると見せかけ、ディフェンスをすりぬけるといったような）。

キーパーについては型にはめずに、その選手のもっている特長と従来の習慣をそのまま生かすというコーチぶりであった。GKに限らず選手の特長を十二分に生かし、その選手にあったコンビネーション、フォーメーションを作り出すことと同様に、型にはめないという一つの考え方に基づいているものと考えられる。

ネデフ氏の言葉を借りるならば「日本的日本独特のプレーをすれば、それが一番良い」ということになる。

なお、参会者は各地から約一〇〇名ほどであり、四時半に終了した。

（F）

『力とスピードが不足』

N・ネデフ氏は9月14日名古屋で名大と愛知県協会の講習会に出席したが、地元担当記者の質問に日本チームの印象を次のように語った。

『一九六一年の世界選手権で日本チームを初めて見た時から、日本のハンドボール界に関心を抱いていた。今回来日してみて、かなり進歩している感じをうけたが全体的な印象としてはパワー（あらゆるたくましさ）とスピードに欠けている。練習の方法、選手の選びかた―小柄な選手よりも長身者を各チームが二～三名育てるなどを検討することも必要だろう。

卒直にいって世界のトップレベルに到達するまでには努力がいると思う。』

『得点することが目的ではないし、ロングシュートの練習と思われては困る。腕の力、シュート力をつけるにはこれがいちばんだ』とネデフさんは云う。

直線的なシュートが放たれると「グッド」という言葉がもれるが高めに浮くととたんにはげしい声がとぶ。低く強くというのが狙いなのだ。女子も同じである。

○……GKの練習は、FPが一人一人ボールを持ってフリースローライン上に並んで半円形をつくり、右サイド、左サイド、右45度、左45度……と左右交互からシュートを放ち、それを防ぐ方法が目新しい。これだとGKは息つくひまなく違う角度からシュートがとんでくるので、自然に動作が俊敏となり、反射神経も高められる。これが何回もくり返されるのだ。

○……ネデフさんの口ぐせは「正しく、速く、強く」だ。特になにごともスピーデイ（機敏）な動作をすることが望まれる。

グランドに来て最初に覚えた日本の言葉は「ハヤク、ハヤク」である。しかも、この「ハヤク」の裏には動くという意味も含まれている。

つまり、パスも動きながらの速いパスでなければいけない。

『これは別に練習でも指導でもありません。習慣となるべきあたりまえのことですよ』という。

○……腕力の弱さとともにネデフさんの目についた欠点は〃デイフエンス〃だという。

『最低だそうです』と竹野監督もいささか元気がない。練習の最後に「フットワーク」がつけ加えられたのもそのためだ。

腰を落とし、両手を広げ上下と左右に小さく動かしながら、前後左右に30秒間休みなくフットワークし、ホイッスルでダッシュに移る。そしてきっちり30秒間休んで再びこのコースがくり返される。

5回めをすぎると選手たちの構えが乱れ動きがにぶる。すかさず声がとぶ「正しく、速く、強く!!」

○……わずか半日の練習をみただけで結論をうんぬんすることはできぬが、記者の印象ではネデフ氏の指導理念は「基本体力、基礎技術の反復」にありそうだ。

〃基礎とは反復することによって身につくもの〃という教科書の第1ページを改めて教わっているという感じが強い。

選手たちもこういっている。

「いまのところ目新しい練習法や理論はありません。しかしネデフさんによって改めて基礎の重大さを認識したのは収獲でした」

○……世界の最上位に君臨するルーマニアの一流コーチから得たものが〃基礎〃であったことは、たしかにすばらしい教訓だと思う。基礎体力、基本技の集積によって、ルーマニアは男女とも世界タイトルを掌中にしたのである。

ともすれば技巧に走りたがる昨今の風潮にネデフ氏来日の意義は大きい。

早川女子主将のいった言葉がよかった「ネデフさんの教えてくださることは、わたしたち古い選手は高校時代いちどは先生にいわれたりやらされたりしているのですが、若い選手は初めてだっていうものが多いのですよ。」 (S)

ネデフ・コーチと一問一答

――大崎電気への指導はルーマニアでの指導と同じ内容か

ネデフ氏 原則的には同じだ。しかしコーチというものは対象によって内容を変えることが必要である。例えば今回はデイフエンスの強化がひとつの狙いでおのずとそのための時間が長くなる。

――あなたの指導のモットーは

ネデフ氏 難しい練習、厳しい練習ばかりではなく練習を楽しくやるということを欠かしてはならぬ。特にヨーロッパの女子に、日本のような練習を課したら、とたんにつるしあげられてしまう。

――国際的な選手の備えているべき条件は

ネデフ氏 腕力、脚力、デイフエンス力、それにココだよ。（といって人さし指で頭をさした）

――よい選手とはどういう選手だと考えるか

ネデフ氏 努力をする選手だ。

――現在、世界でもっとも秀れたコーチと選手のいる国はどこか

ネデフ氏 男子でいえば昨年の世界選手権の上位8ケ国がそれにあてはまる。（注・チエコ、ルーマニア、ソビエト、デンマーク、西ドイツ、ハンガリー、スウェーデン、ユーゴー）

各国のレベル差は急速にせばめられていると思う。

――ミュンヘン・オリンピックで女子は採用されると思うか

ネデフ氏 私個人としては難しいと思う。しかし西ドイツはハンドボールの最も盛んな国でありつけ加えられることになるかも知れない。

――ルーマニアのミュンヘンオリンピック対策は

ネデフ氏 すでに軌道にのっており、男女とも二組のナショナルチームがある。一組は若手が中心だ。

――現行の競技規則は最良のものだろうか。

ネデフ氏 問題点が多いと思う。だからといって、始終変えることは指導者やプレイヤーをまどわすばかりで好ましいことではない。

――ルーマニアにおける審判員の養成はどのようにしているか

ネデフ氏 地方別に審判委員会がおかれ、ナショナルレフェリーになるにはそこから推せんされた者に限り講習会を受け、ライセンスが得られる仕組みだ。講習会にはすでにライセンスをとった者も毎年出席して規則などのテストをうけねばならない。

――あなた自身はいつ頃まで選手生活をつづけられていたのか

ネデフ氏 一九五五年までだ。ルーマニア陸軍のレギュラーとして国際試合の経験も多い

――大崎電気の招待をうけた理由は

ネデフ氏 ルーマニア協会と日本ハンドボール界の8年にわたる結びつきと、日本はよい国だと聞いていたから……。

――家族は

ネデフ氏 妻（ボルテンシア夫人）だけだ。彼女も以前はハンドボール選手で、今はスポーツ教官をしている。

（この一問一答の通訳にはプシーブラムスキー、佐藤康子両氏をわずらわしました。御礼申します）

埼玉教員ク宿願の初優勝

～全日本教職員・奈良市～

大阪イーグルスの7連勝成らず

夏の〝全日本シーズン〟悼尾を飾る第11回全日本教職員選手権大会は8月24、25、26日の3日間奈良県の橿原体育館（第1日のみ畝傍高校体育館併用）に全国から21チームが参加して開かれた。

競技は3チームづつ7組に分かれて予選リーグを行い、各組勝者7チームによって決勝トーナメントが争われた。その結果、埼玉教員クラブが秀れた攻撃力を発揮して進出、決勝戦でも前半の優位を活かして、大阪イーグルスの7連勝を阻む殊勲をあげ初の栄冠を獲得した。

▽予選リーグA組

神奈川教員団 15（6－6 9－7）13 愛知教大OB

大阪イーグルス 29（16－9 13－8）17 神奈川教員団

大阪イーグルス 37（20－1 17－7）8 愛知教大OB

○……順当な結果だったが、イーグルスに対する神奈川の食い下りは賞されてよかろう。

▽同B組

岡山教員 21（7－8 14－2）10 京都教員ク

埼玉教員ク 24（9－7 15－5）12 岡山教員

埼玉教員ク 35（14－8 21－5）13 京都教員ク

○……埼玉の地力がめだった。特に勝機をつかむと一気にスパートする集中的な攻撃力は鋭さが増し、前半善戦した岡山も後半開始後連続10点を奪われてあっというまにつぶされた。

▽同C組

岐阜教員 17（7－7 10－9）16 大阪市体育会

岐阜教員 棄権 広島教員団

大阪市体育会 棄権 広島教員団

○……前半つねに先手をとっていた岐阜だったがパスミスが多く、試合の主導権を得られないばかりか、後半開始直後は大阪にリードを許した。

しかし後半10分すぎから神谷、杉本の好技で再び調子をとりもどし23分17－14と開き、安田、国谷らを中心にして反撃する大阪を辛うじて振り切った。

▽同D組

福井教員 25（13－3 12－3）6 三重県教員団

福井教員 21（12－7 9－8）15 全茨城教員

全茨城教員 33（16－6 17－6）12 三重県教員団

○……国体を控えた福井が大きく成長した。練習量も充分なようで特に坂野、小谷内（両選手ともいちじ大崎電気に在籍）を中心とした攻撃力は活発である。

全茨城も攻守にまとまっていたが、福井の若さを制するまでにはいたらなかった。

▽同E組

栃木教員 15（8－6 7－7）13 滋賀教員

福岡教員 35（19－6 16－10）16 滋賀教員

福岡教員 22（8－4 14－5）9 栃木教員

○……福岡が抜群。同型の栃木―滋賀戦は滋賀が8－13の劣勢から次第に盛り返し白熱したが、たえず先行していた栃木が逃げ切った。

▽同F組

静岡教員団 29（13－9 16－4）13 興東ク（奈良）

興東ク 棄権 山口教員団

静岡教員団 棄権 山口教員団

○……前半はほとんど互角だったが、後半静岡は速攻で加点、全員のムラない攻撃力の強味を発揮した。興東クは得点者が片よりすぎ脚力でも相手に一歩ゆずった。

▽同G組

新潟教員ク 棄権 大分教員団

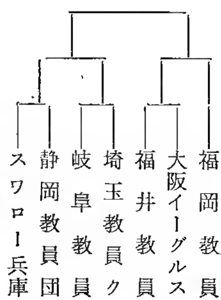
スワロー兵庫 棄権 大分教員団

スワロー兵庫 40（21－7 19－13）20 新潟教員ク

○……兵庫は終始チームプレーに徹し、多彩な攻撃力を示し、前半で大勢を決した。新潟は後半わずかに気勢をあげたが、総合力に大きな開きがあった。

決勝トーナメント

予選リーグ終了後、各組勝者によって抽せんが行われ決勝トーナメントの組合せが次のように決められた。



▽1回戦（＝準々決勝・3試合）

大阪イーグルス 19（10－9 9－3）12 福井教員

得	【大阪】		【福井】	得
0	島崎	GK	越田	0
0	広川	GK	竹田	0
0	松尾	FP	草立	0
3	福井	FP	竹野	0
1	樫塚	FP	森下	0
2	東	FP	塚崎	0
0	木村	FP	霜野	0
4	井上	FP	坂野	2
6	青木	（主審 西川）	小谷内	3
1	北岡		福田	3
2	加藤		田島	4
19	（3）	7MT	（2）	12

○……前半、大阪はまったくディフェンスが甘く、福井のポストプレーに得点を奪われ、25分には6－9とアヘッドされた。

このあとの5分間にやっと青木の巧技などで逆転はしたものの〝常勝〟らしからぬ不出来だった。

福井は後半もひるまず、中盤までよく食い下っていたが、疲れからか、しだいにミスプレーが目立ちはじめ大阪のカットにあって点差を開かれた。

大阪の乱調があったとはいえ、福井の気力に満ちた試合ぶりはほめられてよい。

埼玉教員ク 26（13―6、13―9）15 岐阜教員

【岐阜】		得
GK	高橋	0
GK	鈴木	0
FP	神谷	4
FP	村瀬	1
FP	天野	0
FP	大洞	2
FP	尾藤	2
FP	杉本	5
FP	石樽	1
FP	高島	0
FP	大平	0

【埼玉】		得
GK	高橋	0
GK	上久保	0
FP	金子	0
FP	三枝	1
FP	松田	3
FP	北井	6
FP	多勢	0
FP	結城	7
FP	高戸	5
FP	高田	4

（主審 富樫）

26（2）7MT（2）15

○……埼玉は速攻を多用して確実に得点、結城らのロングシュートもよく決まった。

岐阜にもチャンスは多かったがシュートミスがあり、自滅の感じがした。後半は、埼玉がインターセプトから速攻を決め10分18―7としてそのあとの岐阜の懸命の反撃も余裕を残して振り切った。

岐阜のチーム力も決して劣ってはいなかったが、一回も試合のペースを握れぬあたりに敗因があろう。

スワロー兵庫 27（9―14、18―7）21 静岡教員団

【静岡】		得
GK	吉田	0
GK	久保田	4
FP	関	2
FP	塩崎	4
FP	井上	8
FP	川崎	2
FP	大石	0
FP	貫井	1
FP	野口	0
FP	塩沢	0

【兵庫】		得
GK	新井	0
GK	平	0
FP	泉	4
FP	梅田	1
FP	栗山	1
FP	幸田	5
FP	北山	6
FP	大原	3
FP	岩崎	7

（主審 藤原）

27（0）7MT（2）21

○……好試合だった。静岡は前半井上を軸に強引なシュートを決めて20分10―4と開き試合の主導権を握った。

リードされた兵庫は後半、積極的なカット戦法から相手の乱れを誘っては逆襲を成功させて点差をちぢめ、15分2点差に追いあげたあと16分と18分に木原の連続ゴールでついに同点、さらに21分ベテラン幸田がシュートを決めて逆転その後もチャンスを確実に活かして攻め立て勝利を奪った。静岡は後半、攻防ともに消極的となり、勝てる試合を失ったのは悔まれよう。

▽準決勝・

大阪イーグルス 32（14―7、18―14）21 福岡教員

【福岡】		得
GK	坂下	0
GK	福田	0
FP	広末	1
FP	亀谷	1
FP	清川	2
FP	古野	1
FP	山崎	0
FP	伊藤	3
FP	三友	9
FP	小林	4

【大阪】		得
GK	広川	0
GK	島崎	0
FP	松尾	4
FP	福井	7
FP	奥浜	2
FP	東	2
FP	樫塚	6
FP	井上	2
FP	青木	7
FP	北岡	0
FP	加藤	2

（主審 藤原）

32（1）7MT（1）21

○……立ちあがり福岡のシュートミスを速攻に結びつけ5点を先行した大阪イーグルスが、最後までゆとりのある攻守を示して大勝した。

福岡は前半ゴールエリア前で小刻みによく動いていたが、肝心のシュートに結びつかず後半になってようやく伊藤、三友らが得点を重ねたが遅かった。

大阪の多彩な攻撃と豊富なメンバー、それに展開の巧さが相変らず目立った一戦。

スワロー兵庫、善戦空し

埼玉教員ク 31（12―11、19―12）23 スワロー兵庫

【兵庫】		得
GK	新井	0
GK	平	0
FP	泉	5
FP	梅田	0
FP	栗山	3
FP	幸田	3
FP	北山	9
FP	上野	0
FP	大原	0
FP	岩崎	3

【埼玉】		得
GK	高橋	0
GK	上久保	0
FP	金子	0
FP	三枝	3
FP	松田	4
FP	北井	14
FP	多勢	1
FP	結城	5
FP	高戸	1
FP	高田	3

（主審 岡本）

31（5）7MT（5）23

○……一進一退の緊迫した経過のあと20分6―8から埼玉は連続4点をあげて10―8とし逆に優位に立ち前半を終った。

後半、兵庫は6分16―15と再びリードを奪い返したが、埼玉はそのあと連続4点、さらに14分から21分までの7分間には連続8点を奪う鋭い攻撃力を示して勝負を決めた。

兵庫はよく走り、ベテラン揃いらしい展開を示したが、埼玉の若さにあふれた攻撃力をかわし切れなかったのは惜しい。

埼玉の力と技は今大会〝絶好調〟のようである。

福岡、鮮やかな逆転勝ち

▽3位決定戦

福岡教員 25（12―11、13―9）20 スワロー兵庫

○…前半両チームとも、疲れのためか動きが鈍く、パスミスの多い精彩を欠く試合ぶりだった。

しかし、兵庫は栗山の好配球から北山らが巧く得点、福岡も三友山崎、亀谷らのポストプレーでゲットし、スコアはめまぐるしく変わった。

後半もミスプレーは多かったが兵庫は岩崎らの活躍で20分20―17とリード、そのまま押し切るかにみえたが、粘る福岡は20分以後三友の連続ゴールで20―20のタイとし、さらに攻撃の手をゆるめず矢次ばやに得点をあげて一気に逆転から絶対優位となるみごとな攻撃を見せ3位となった。

兵庫は、終盤に走りがにぶり、北山のシュートが活きなかったのも敗因の一つだ。

大阪、序盤の不調ひびく

▽決勝

埼玉教員ク 17（10―7、7―7）14 大阪イーグルス

【大阪】		得
GK	広川	0
GK	島崎	0
FP	松尾	2
FP	福井	1
FP	樫塚	3
FP	東	3
FP	木村	0
FP	井上	1
FP	青木	1
FP	北岡	3
FP	加藤	0

【埼玉】		得
GK	高橋	0
GK	上久保	0
FP	金子	0
FP	三枝	0
FP	松田	1
FP	北井	5
FP	多勢	0
FP	結城	2
FP	高戸	4
FP	高田	5

（主審 若山）

17（1）7MT（0）14

○……埼玉の出足はすばらしかった。1分30秒松田、2分北井、4分結城で3―0。7分に1点返されたが10分北井、14分高戸で5―1とした。結果的にはこの序盤の好・不調が勝負を分けることにもなった。

北井がマークされながら高田、高戸、結城がよく走り、大阪のディフェンスをゆさぶった〝力〟はみごとである。

○……大阪はいつになく乱調で1点返しても、すぐにはねかえされていっこうに点差をつめることが出来ずこのあたり「試合巧者」の名にふさわしくなかった。

後半に入っての反撃が期待されたが、開始後あっさり2点を奪われ7―12とかえって傷口を広げ、その後は焦りも手伝って10分14―8と差がつき大勢が決まった。

○……「教員界といえばイーグルス」といわれていたほどの常勝チームに土がついたことによって教員界の一歩前進が果された。埼玉教員クの一勝は特筆されよう。

大会前から埼玉教員クは自信に満ちていたようだ。本来ならこの期間は国体の関東予選が行われるハズであったが、埼玉が主唱者となって教員部門だけ日程をずらしている。

数年来燃やしつづけていた大阪イーグルスを倒すという執念が、倒せるという確信に変わっていたとみてもよいだろう。

国体における両者の激突が楽しみなものになった。

総評　森田正英

本年2月17日日本ハンドボール協会理事会において、第11回大会を奈良で開催するよう希望された。そこで奈良県の会場其他の都合を調節した結果困難点は多々あったが今となっては他の府県でもむずかしい様子なので内諾の返事を日本協会に送るとともに4月14日奈良県協会の総会で正式決定した。時間的余裕が少いのと予算的にもまた地元の体勢も充分できないまま本大会を引受け色々迷惑をかけた点も多かったが何とか無事終了することができた。これもまったく審判の方々の適切な御指導と、参加チームの御協力によるものと感謝している。またこの大会は未熟な奈良県の組織と、チームにとって、よい教訓を受ける機会であったことも嬉しく思う。成績は前掲の通り埼玉教員クラブの初優勝で終った。大会をふりかえって全般的に素直な感想を述べ今後の参考にしていただければ幸いと思う。もし間違っておればお許し願いたい。

1　主催者の日本協会より保坂会長代行、奈良県教育委員会より池田教育長が開会式に出席された事は当然といえ結構な事であった。

2　さすが教職員の試合だけあって何のトラブル、何の事故もなく無事終了した事は何より嬉しい。

3　教職員大会はハンドボールの普及発展のためには、一番大切な試合であるにもかかわらず参加数が少い。このため日本協会、各府県協会は多方面に働きかける必要がある。またハンドボールを行なう教職員も大乗的に自覚する必要がある。

4　本大会を日本協会、地元一任ではなく教員連盟（仮称）のような組織を作り、大会の準備運営を行なう必要がある。（参加チームのほとんどが連盟を作ることに賛成されたので近い将来具体化されると思う）

5　優勝された埼玉教員クラブは別として、一般的に技能の差以上に練習量の差が見えた感じがする。

6　先生は生徒を立派に指導されるのにくらべて自分の事になると立派でない面があるとの外部からの声があった。（体育館、宿泊施設の使用上において）しかしこれは先生に対する期待が強過ぎるためかも知れぬ。有難迷惑な話だがお互い注意する必要があろう。

7　申込要領の完全でないチームが多少あった。自発的な試合参加のため自己の職場での関係上むずかしい事はわかるが、大会を世話する関係者の立場も考えてほしい。また申込後、試合二日前に1チーム、1日前に1チーム、当日1チームが棄権された。何とかして参加しようとの努力は蔭にあるとは思うが結果的には大会運営に支障をきたした。それぞれのチームの責任を問いたい。

8　審判講習会について、

昨年来の希望でこの講習会は実施されたが、第二日試合終了後であったため参加者が少なかったのは残念である。講師の宇津野先生より適切な御指導を賜ったわりには盛り上りが少なかった。日本協会として講習会に対する全般的な計画に一考を要すると思う。

（奈良県協会副会長）

全日本優秀選手候補 41名を発表……日本協会

日本協会では今夏行われた全日本学生、全日本総合、全日本教職員の3選手権の結果にもとずいて男子の「昭和43年度全日本優秀選手候補」41名（FP36、GK5）を選こうした。

これらの選手にこのあと行われる国体、全日本選抜、全日本実業団などの全国大会の優秀選手（数は未定）を補充し、その中から来年春「昭和43年度全日本優秀選手」を選出し表彰することになっている。

女子は、世界選手権に備えてトッププレイヤーが全日本総合に欠場したことから特に候補の選こうを行わず今年度全日程が終了後直接「優秀選手」を決める予定。

なお、懸案のナショナルチーム選手（世界選手権、ミュンヘン五輪強化候補選手）の選こうと、今回の候補とは特に関係はない。

発表された41名は次のとおりだが、内訳けは社会人21、学生20名だった。

▽FP　木野、北村（以上全立教）、野田、東（以上立教大）、竹野　井上　西村、近藤（以上大崎電気）、近森（全広島—大崎電気）早川、高橋、（以上日体大）東、青木、樫塚（以上大阪イーグルス）平岡、畑、浅野（以上東京教大）村上、新実、森（以上芝浦工大）、江名、松浦、舟木（以上同志社大）、高梨（以上三景）田島、坂野（以上福井教員）市原（菊松会・全広島）、加藤（住友化学菊本）、北井（埼玉教員）、山田（常盤工業）、大宮（長崎教員）、大山（法政大）森山（中央大）、荻原（早大）黒川（中京大）

▽GK　福本（大崎電気）、高橋（埼玉教員）、本田（日体大）、上野（東京教大）、金（法政大）

これら41名の選手のうち希望者が、来日中のN・ネデフ氏（ルーマニアナショナルチームコーチ）の指導を東京で受けた。

総務局と改称

日本協会では競技・事業・事務3局のうち事務局を総務局と改称することにした。

なお、総務委員として、さきに決定した中野、高田氏のほか、須藤力、山田哲の両氏が加った。

三瓶福島協会長他界

病気療養中の三瓶勝治福島県協会長は8月22日なくなられた。謹しんでごめい福を祈ります。

訂正　本誌前号4頁最下段の試合スコアを次のとおり訂正します。

全立教 32（13—9, 19—9）18 芝浦工大

球界パトロール

出来るか難問題の一掃

関東学生リーグ"室内"開催へ

▽……関東学連が今秋のリーグ戦を体育館（駒沢の予定）で行うことになった。関西学連では39年春以後今春までにすでに6シーズンを室内で開いているが関東では初めてのこと。

西敏郎会長が常にいう『よい試合を多くの人に見てもらう』の促進でもあるがほかの「背景」も多いようだ。

▽……関東に限らず各学連では、ここ一、二年急速に加盟校が伸びた。関東、関西が男子4部と女子、東海が3部と女子といった具合に下部組織も広がる一方で、そのこと自体は結構な話なのだが、その運営——特に試合数の増大にともなう会場問題、審判員確保などにはどこも頭を悩ましている。

▽……関東学連の話では『室内で行うのは男子1部と2部、それに女子の各試合だ』という。

今春までは、駒沢グランドに4面のコートを造って一日実に15試合を消化し、いったいどこでどの試合が進行しているのか面くらうこともしばしばだった。

雨による日程の変更も加盟校が10校程度の時は、各校グランドを持ちまわって処理できたが、30校をこすようになると簡単にはいかない。

今春の4部リーグ戦では、雨天変更の連絡不徹底から棄権扱いされたチームが出て抗議をうけ、改めて"再試合"を行うという珍事もおきている。

▽……さらに問題なのは、ホームグランドともいうべき駒沢がホッケー、サッカー、アメリカンフットボール、洋弓の関東学生リーグのほか民間団体の運動会などと"奪いあい"というのが現状で、必しも土、日曜をおさえられるとはかぎらない。ウイークデー開催となると観戦にも不便だし、OBに予定している審判員がなかなか揃わない。学生の本分たる"学業の放棄"を強いる結果にもなってしまうのだ。

▽……経費は倍以上かかるが室内に移せば、こうした問題のいくつかが解決される。たとえウイークデーでも夕方からの開催となれば問題はないし、むしろ観客動員が期待できそうだ——という考えが学連役員の間で支配的になったのもむりからぬことだろう。

各校持ちまわりで日程を編成して欲しいといわれた3、4部も審判員などの調達さえ連盟が責任を持ってくれればということで、いちおう納得しているようだ。

経費面で大きな赤字が出なければ、来春以降も室内で開きたい意向の関東学連だが、全国各学連共通ともいうべき問題の一つの解答を得ることが出来るかどうか、その成果に注目したい。（X）

●問題点シリーズ④ 〃全日本〃大会の再検討

問題点シリーズ——今回は球界の懸案となっている全日本大会の再検討を採りあげてみた。

× ×

日本協会企画委（事業局）が進めているこの問題の焦点は全日本総合をどのような規模で、いつ開くかにあるようだ。これまでに得た情報と私見をまじえてこの問題を探ってみると…。

全日本総合は予選制度（男子）がようやく軌道にのり、県予選、ブロック予選ともにかなり充実して来ている。「本大会の1回戦以上の内容」とまで云われるような地区も生まれている。

日本協会としてもそこまで育って来ているのを根底からやりなおすことには反論もあるようで、むしろその開催期に論議が集中されている。

理想として考えられるのはこの大会を戦前あるいは創設当初のように「全日本選手権」と改称して内容もシーズンの総決算最高大会とすることだ。そのためには期日を12月又は1月にすることが望ましい。

ちなみにヨーロッパ各国の国内選手権はほとんど1月以降だ。

現行のように8月開催はあまり根拠がなくアウトドアシーズンのナンバーワン決定というのも現実には荒天となると予備会場の体育館に移るのだから詭弁にすぎない。そうなれば当然現行の全日本選抜を他時期に動かすか、解消するかの二つに一つとなろう。

全日本各大会も大なり小なりの変更が必要になってくる。

各大会の勝者は必ず全日本総合に推せんされるとなれば、いずれも11月中に大会が終了していなければならない。とりあえず全日本実業団選手権が今のままではまずい。

この問題の解決はシーズン制の確立というもう一つのテーマの結着にもつながろう。

仮に全日本実業団選手権が夏季または秋季に移れば、全日本の各大会はすべて7月以降に全日本学生、全日本高校、全日本教職員、国体と集中されるわけで、7月から全日本総合終了までを日本の「ハンドボールシーズン」ということができる。（地区大会や学生リーグ、全日本各予選は〃シーズン外〃に開かなければならぬであろうが…）

さて、ここでかなり実現の色が濃くなったと伝えられる日本リーグと全日本各大会の関係が新たな議論となろう。

しかし、日本リーグといっても女子だけで参加チームはおそらく実業団に限られてしまいそうであり、全日本実業団選手権の発展した内容と割り切って考えれば同リーグの上位チームを全日本総合選手権に推せんすることで当分はよいだろう。

最後に全日本総合の出場チームと会場について私見を述べたい。まず男子は現行の全国9ブロック代表のほか関東から東京、近畿から大阪、東海から愛知を独立させ計12、残る20のワクを学連11、実業団5、教職員3、それに前年度優勝チームとする。高校を加える英断があれば学連のワクから1～2をけずる。

女子は当分予選を期待するのはむりな実情だがとりあえず実業団（又は日本リーグ）6、学生4、前年度優勝チームの計11チームを日本協会推せんとし、残りは13チームまでに限って自由参加とするのはいかがだろう。女子は24チーム（3チームづつ8組の予選リーグのあと、ベストエイトの決勝トーナメント）が理想。出場チームがすくなければ上位チームをしぼったあと日程に見合せて決勝戦以外はリマッチ（2試合）システムを初採用するのも面白いと思う。

ところで会場だが、もうそろそろ国体のリハーサル的な狙いはやめにしたらどうか。そして極端にいうならば東京、大阪、名古屋の持ち廻り、一歩ゆずっても6大都市又はその周辺に限定すべきだ。

ミュンヘンをめざすPR効果その他を考えればすべての面でこれは得策だと思う。

国体のリハーサルに困るというなら加盟団体の全国大会を引きうけてもよいのだし場合によっては全日本選抜をそこでやるべきだ。

昭和38年1月の新潟協会がその例だ。その規模はその協会の可能な範囲でよい。新潟の時は男女各3に地元各1を加えて効果を上げた（本誌13号参照）。もちろん現行の全日本選抜の継続という考えかたは捨ててのことである。

【杉山茂＝NHK運動部】

× × ×

これら一連の問題は頂点強化をめざす日本協会の今後の成否を握る大テーマである。日本協会役員諸兄を含め読者のかたがたから多くの意見が寄せられることを期待したい。

企画委員会の動き

日本協会でこの問題を担当しているのは的場事業局長（常務理事）を委員長とする企画委員会。

同委では8月以降再三にわたって常任委員会を開き、多角的に各大会の再検討を行っている。

いまのところ日本協会へ提出するまでには煮つまっていないようだが、少くとも全日本総合、全日本選抜の両大会については、かなり大巾な改訂案が上程されることになりそうである。

同委では既存の大会の検討を進める一方、新しい企画についても積極的な姿勢を示しており、クラブチームによる全国規模の大会として「全国都市対抗」（仮称）、底辺指導者の養成・強化のための「全国教育系大学大会」（仮称）、増加しつつある中学球界の拡充を目的として「ブロック中学校大会」などが話題にあげられている。

各大会がマンネリ化し、脱皮を望む声が高まりつつあっただけに、ミュンヘン・世界選手権といった大目標を前に日本協会が前向きな態度を採っていることは歓迎されよう。

ハンドボールの歩み（第7回）

ルーマニアの初優勝

―第4回男子世界選手権―

日本が初参加

参加国22ケ国に

初の予選制を採用

1958年の大会以来、各地にハンドボールは普及し、第4回大会には、世界各地から22ケ国の申しこみがあった。これら22ケ国をすべて西ドイツの本大会に集め、試合を行なうことは不可能であるので、本大会の前に予選を行なうことになった。

予選なしで本大会に直接参加できることになったのは、スウェーデン（前回優勝）、ドイツ（東西ドイツ混成チーム、開催国日本（アジア代表）、ブラジル（アメリカ代表）、アイスランド（北方地域代表＝世界選手権史上、ヨーロッパの国がこのような特別の処置を受けるのは、これが初めてで終りである。もっとも、アイスランドに対しては、予選を本大会の直前に相手国にのりこみ行なうという特例は現在でも設けられている）の5ケ国で、他の国は残る7の座席を17ケ国で争うという過酷な競争を勝ちぬかないと本大会に進めないことになった。

▽予選北部地区

デンマーク 26―15 フィンランド
デンマーク 34―24 フィンランド
デンマーク 22―13 ノルウェー

勝者はデンマーク。デンマークの勝ちが決ったので、他の試合は行なわなかった。

▽同西地区Ｉ

スペイン 12―12 フランス
フランス 16―7 ポルトガル
スペイン 18―16 ポルトガル
フランス 16―9 スペイン
フランス 10―9 ポルトガル
スペイン 14―13 ポルトガル

勝者フランス。このグループ、いずれも少差で試合が決っていて、どこが勝ってもおかしくなかったが、フランスが幸運を手に入れた。

▽同西地区Ⅱ

オランダ 22―12 ルクセンブルグ
ベルギー 23―21 ルクセンブルグ
オランダ 24―12 ベルギー

勝者はオランダになった。ここでは一回戦方式を採用することになっていた。

▽同中央地区Ｉ

スイス 14―11 オーストリア
オーストリア 13―12 スイス

1勝1敗となったが、得点合計スイス26―24オーストリアでスイスが本大会に出場。

▽同中央地区Ⅱ

ユーゴー 18―13 ハンガリー
ハンガリー 15―13 ユーゴー

1勝1敗となったが、得失点差でユーゴーが本大会に。

▽同東地区Ｉ

チエコ 24―12 ポーランド
チエコ 22―10 ポーランド

優勝候補チエコの楽勝となり、チエコが本大会に。

▽同東地区Ⅱ

ソ連 21―9 ルーマニア
ルーマニア 18―13 ソ連

1勝1敗となったが、ルーマニア27―25ソ連の僅か2点の得点差でルーマニアが本大会に出場。

ところでこの時は予選方法について、現在のような規定ができていなかったので、地域的に近いもの同士をあてたので、強チームが次々に予選で消えていった。

本大会は1961年3月1日～12日まで西ドイツ各地で行なわれた。

本大会は十二チーム出場であるので、3チームにわけた予選リーグ、つづいて各グループ上位2チームを4チームづつにわけた準決勝リーグ。更に一、三、五、七位決定戦を行なう方式をとった。またブラジルが大会前に急に参加をとり消したため、ノールウエーが代って出場することになった。

▽本大会予選リーグA組

スウェーデン 15―11 ノールウェー
ノールウェー 18―17 ユーゴー
スウェーデン 14―12 ユーゴー

①スウェーデン②ノールウェー（へ）③ユーゴー
以上準決勝リーグ（へ）

▽同B組
ドイツ 33—7 オランダ
フランス 21—11 オランダ
ドイツ 21—7 フランス
①ドイツ②フランス（以上準決勝リーグへ）③オランダ

▽同C組
チェコ 38—10 日本
ルーマニア 29—11 日本
チェコ 12—8 ルーマニア
①チェコ②ルーマニア（以上準決勝リーグへ）③日本

▽同D組
デンマーク 24—13 アイスランド
アイスランド 14—12 スイス
デンマーク 18—13 スイス
①デンマーク②アイスランド（以上準決勝リーグへ）③スイス

予選リーグC組には、初出場の日本が出場したが、優勝候補筆頭のチェコと優勝をとげることになるルーマニアに夾撃され、ついに準決勝リーグに進出はできなかったが、この大会に出場したことによって、世界への眼が大きく開かれ、今日の7人制ハンドボール発展のための基礎が作られることになった。ここでは、チェコがルーマニアに楽勝したことを特筆しておかなければなるまい。D組はデンマークの圧勝におわった。

▽準決勝リーグI組
スウェーデン 15—11 フランス
チェコ 15—15 アイスランド
スウェーデン 18—10 アイスランド
チェコ 25—6 フランス
チェコ 15—10 スウェーデン
アイスランド 20—13 フランス
①チェコ2勝1分、②スウェーデン2勝1敗、③アイスランド1勝1敗1分、④フランス3敗

チェコがアイスランドに苦戦したほかは順調に勝ち星をあげ、東欧勢の強さをはっきり示した。

▽同2組
ドイツ 15—8 ノルウェー
ルーマニア 15—13 デンマーク
ルーマニア 12—9 ドイツ
デンマーク 10—9 ノルウェー
ドイツ 15—13 デンマーク
ルーマニア 16—14 ノルウェー
①ルーマニア3勝、②ドイツ2勝1敗、③デンマーク1勝2敗、④ノルウェー3敗

ルーマニアが予想外の強さを見せ、尻上りに調子を出し、準決勝ラウンドを完勝した。

このグループでは、ドイツ、デンマークの呼び声がたかかったがルーマニアの快調さの前にもろくも破れ去った。

このあと、各グループの一位同士、二位同士、三位同士、四位同士でそれぞれ一、三、五、七位決定戦が行なわれた。

▽七位決定戦（3月12日ドルトムント）
ノルウェー 13（7—7、3—3、2—0、1—2）12 フランス

▽五位決定戦（3月12日ドルトムント）
デンマーク 14（7—8、7—5）13 アイスランド

▽三位決定戦（3月12日ドルトムント）
スウェーデン 16（8—8、9—5）14 ドイツ

▽優勝戦（3月12日ドルトムント）
ルーマニア 9（4—4、3—3、0—0、0—0、0—0、2—1）8 チェコ

5位決定戦はデンマークがアイスランドに辛勝して5位を確保した。デンマークは期待されながらついに5位におわった。アイスランドはくじ運にもめぐまれたが、チェコに善戦するなどして、大いに活躍した。

3位決定戦は前半リードされていたスウェーデンが後半よくもりかえし、やっと3位を確保した。弱体が伝えられながらも、よく3位を確保したスウェーデンの斗志は賞されよう。ドイツは統一チームにありがちな欠点をさして出さなかったが、ルーマニアにたたかれたのが大きく響き、ついに4位に甘んじた。

優勝戦は予選リーグで対戦しているチェコ—ルーマニアの組み合せになった。チェコはこの対戦ならまずと考えていたのだろうが、ルーマニアは充分に前回の対戦を頭に入れ、チェコ対策を練り、試合に応じた。

ルーマニアの善戦にあって、チェコはいささか面喰ったのであろう前半同点で終了し、勝負は後半にかけられた。ルーマニアは終了直前まで1点のリード、これをチェコが7MTをものにして、7—7の同点、重苦しいふんいきのまま延長戦に。疲れのためか、第一延長は0—0で第二延長に。互いに7MTで1点ずつをあげ、その後のコスタケ弟のあげたカットインからの1点をルーマニアは守りきり、誰もが予想しなかった初優勝を飾った。7人制の主導権は完全に東欧に移ったことを示す一戦。

ルーマニア優勝メンバー
GK：レドル、ボゴレア
FP：バドレスク、ブルガル、コーマン、コスタケ兄、コスタケ弟、コバシュ、フナト、イバネスク、モーゼル、ノデア、オテレア、テルマン

フランスの技術研究(14)

シュートの際の二人のコンビ

訳・藤　本　強
（日本協会常務理事）

前回までに攻撃フォーメーションの基本は一応すべてつくしたので今回から3度にわけ、攻撃フォーメーションについて、実例を述べていくことにする。

これから紹介するフォーメーションはあくまでも例であり、それぞれのチームでは、チームの特徴に応じ、それぞれ変化させ、使用してもらいたい。

また攻守の情況に応じ、次々に変化していくのが、ハンドボールのフォーメーションの特徴であることは周知の事実であろう。

攻撃側があるフォーメーションを使えば、守備側がそれに対応策をとる。それをどうのりきるかを攻撃側が考える。これのくりかえしによって、よりスピーディーなより洗練されたハンドボールが生れることになる。

以下にフォーメーションの例を列挙しよう。

例1（1図参照）

まず守備側を3人ずつ両サイドに分断する。

左サイドと左の浮いた位置の選手によるコンビ

左サイドにいるA2は守備側の選手D1とD2の間に入っていくA1は左へ行くフェイントをかけまずD1を左にふり、次に右前方へ進む。D1はA1につかざるを得ない。A1は充分にD1をひきつけておいて、D1がA2をマークできないと見るやA2にパスをする。もっとも単純なフォーメーションであるが、他の選手が十分に相手方をひきつけていた場合には、きわめて成功率の高いものになる。ここでは、A2がD2をいかにしてふりきるかとA1のパスのタイミングが重要になる。A1からのパスはバックハンドで行なえれば一番良い。

例2（2図参照）

中央の浮いた位置の選手とポストの選手によるコンビ。

まずこれも左右のサイドと、浮いた位置に入っている選手達が充分に守備選手をひきつけていることが一つの条件となる。

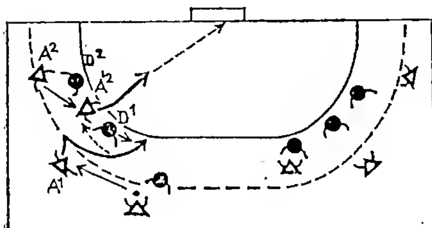
ボールをもっているA3がA1にパスを入れる。A1はキャッチするとすぐに左にフェイントをかけ、D1をゆさぶる。と同時にA2はまず右後方にフェイントをかける。A1は右にスタートを切るD1はこれにつかざるをえない。D1を充分にひきつけたところでA1は、フェイントをかけてD2をゆさぶり、左前方にスタートをしつつあるA2にパスをする。

A2はパスを受けるとそのままたおれこむなりして、シュートする。A2はこの際左手でシュートすることが望ましい。

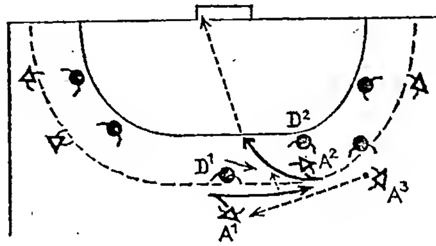
A1とA2の間のパスはアンダーパスか、スピードのあるフックパスが望ましい。

これもごく単純なフォーメーションであるが、最後の決定的な形になっていれば、A1とA2のフェイントがきれさえすれば、簡単に得点に結びつけることが可能になろう。もちろんこの形にするまでに、充分にバックを動かす、全員の走りとパスが必要になるのは、云うまでもないことである。

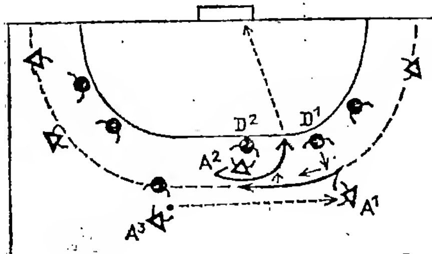
例3（3図参照）



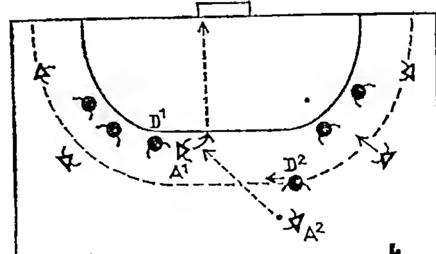
1



2



3



4

例2の変化として、とらえることができる。

これはポストの選手と浮いた位置右の選手とのコンビであり、例2と全く同様の二つのフェイントと一つのパスからなっているものである。

例4（4図参照）

一発のポストへのパスをシュートに結びつける浮いた位置中央とポストの選手のコンビ。

このような状況を単純に作りだすことは困難であるが、前段階の走りとパスを行なえば、このような状況になることはしばしばお目にかかれる。

基本的には、D1のポストの選手A1に対する守りが悪く、A1が好位置を獲得することになるのだが、これを側面から、盛りたてるには、A2の状況判断と他の選手の動き（たとえば浮いた位置右の選手が前につっこみ、バックを引きつける）がなければ成功しない。

例5（5図参照）

右サイドに4人、左サイドに2人の位置をとった場合の例になる。ボールはA3がもっている。まずA1は中央に入っていくようにする。そして、パスを受けるフリをする（声を出すなり、手で大きく相図をするなりする）。D1はA1についていき、マークせざるを得ない。この時にA2はD2をふりきりながらA1のあとを通るようなコースをとり、A3からのボールを受け、シュートする。

これもごく単純であるが、右サイドに4人を置いている場合にはかなり有効な改めとなる。この時ポストに入っている選手は必ず、右方向に走り、バックをつれさるようにすると同時に、カバーに入ろうとするバックをブロックするA2に瞬発力さえあれば、まず得点はまちがいない。

例6（6図参照）

攻撃に入る準備位置は例5とは逆に、左サイドに重圧をかける形をとっている。

ごく単純なサイドと浮いた位置右の選手の交替で得点を生みだそうとするものである。

ボールはA3がもっている。左サイドの攻撃側の選手はそれぞれのマークを自分に引きつけておくA1はボールをA3からもらい、やや前進し、十分にD1を引きつけて、右にスラップをする。

A2はA1がスタートすると同時に右にフェイントをかけ、D2を右にひきつけ、すぐに左にスタートする。A1とすれちがうときボールをうけ、そのままシュートこれはA1とA2の動きが早ければまず成功は疑いない。この動きの速さに鍵がある。

早ければD1とD2の間の「チェンジ」は不可能になる。それとフェイントをかけてからスタートすること、これも主要である。

例7（7図参照）

例5・6同様、4―2にバックをわけ、ブロックを使って、攻撃する方法、

ボールは互のパスで右サイドにもっていき、右サイドにバックをひきつける。

A1は右にスタートして、すぐに左にD1とD2の間に入っていく。D1はこれにつく。この時A2のスピードが肝要。A1はD2をブロックする。その瞬間、A2は右にスタートし、A3からパスをもらいシュート、A4は必ずD4を右サイドにひっぱっていく。もし、D1が充分にA1にひきつけられず、A2のアタックに向ったならば、A2はD2をブロックしたあと、ピボットターンをしているA1にパスをする。A1はシュートする。

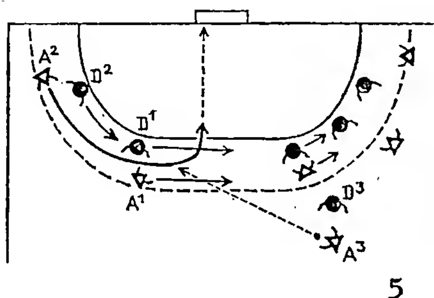
例8（8図参照）

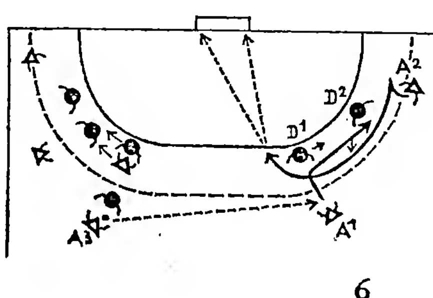
左サイドに重圧をかけておいて中央からのシュートをねらう方法、ポストに入っているA1は右にスタートをし、D1をひっぱっていく。A2は前に進み、D2を釘づけにしておく。

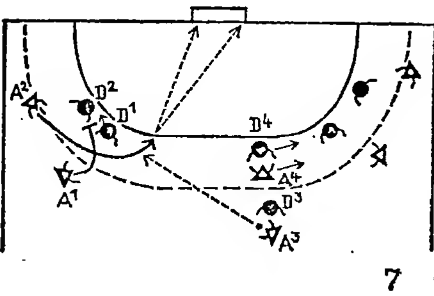
A1がD2をブロックした瞬間、A2は左前方にスタートをしA3からパスをもらう。

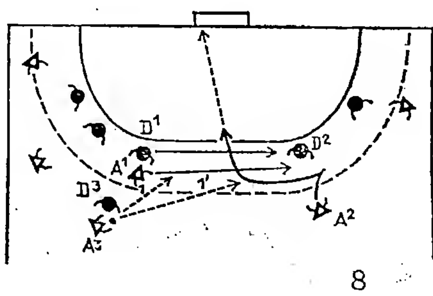
もし、A1がスタートしても、D1がついていかないならば、A3はA1にパスを入れる。ここでもシュートチャンスは生れる。またA1が右利きの場合、D1は必ずA1より、右側に入っていなければならないので、D2とチェンジすることは不可能である。

以上シュートチャンスの際のいくつかの例を見たが、その前にこのような状況を作る準備段階が必要なのはいうまでもない。


5


6


7


8

連載・技術教室⑥

シュートからみた女子選手（下）

―第8回全日本実業団女子ハンドボール選手権―

5大実業団チームの実力分析――北川　浩

日本協会技術部員
（女子第2回世界選手権チームヘッドコーチ）

フェントにより相手をぬいたシュート得点率

チーム名	試合別				計	
大崎	4/3	0	0	2/2	7/5	
愛知	7/4	2/1	3/1	0	12/6	
田村	2/0	0	0	0	2/0	
三菱	1/0	2/2	2/2	1/1	6/5	
大洋	1/1	2/2	0	1/1	4/4	
					31/20	0.66

プロンジョンシュート得点率

チーム名	4試合別				計	
大崎	9/2	4/1	11/2	7/2	31/7	
愛知	11/3	8/2	15/2	9/0	43/7	
田村	12/3	18/8	1/0	10/4	41/15	
三菱	12/1	6/5	3/2	8/3	29/10	
大洋	3/0	6/2	3/0	4/2	16/4	
					160/43	0.26

各チームの速攻成功率

チーム名	リーグ戦各試合				計
大崎	0	2/0	1/0	3/1	6/1
愛知	1/0	0	0	0	1/0
田村	1/1	1/1	1/0	4/2	7/4
三菱	0	0	1/0	2/2	3/2
大洋	1/1	3/3	1/1	4/4	9/9
					26/16

ポスト・プレーによる得点

チーム名	各試合				計	
大崎	1/1	1/0	1/1	0	3/2	
愛知	0	0	2/0	1/1	3/1	
田村	4/2	1/0	2/2	1/1	8/5	
三菱	0	1/1	0	1/0	2/1	
大洋	6/5	2/2	2/2	3/2	13/12	0.92
					29/21	0.72

フエントにより相手を抜いたシュートからの得点

一見してよく入っている。シュート位置がエリヤ近くであるのがよく入る原因であろう。ボールを持つたら「逃げない選手」がこのシュートで成績がよい。

1位は大崎鈴木3/4他に大洋垂水1/3三菱江川2/2位でワンマンチームがないから一人じめにしたものはない。

プロンジヨンシュートによる得点

プロンジョンシュートは女子第一回ヨーロッパ遠征チームがルーマニヤのコーチより教わって来た土産品である。

外国に行って一番目につくのは片手のボール操作である。たしかに有利であるが、日本人が出来るかは疑問である。ルーマニヤコーチより三つの技術を習って日本への土産としたが日本に残ったものはこのシュートだけである。このシュートは外国でも小型選手がよく使うものである。

参考まで後二つの技術を書いておく。

① バックパスを使ったピボットプレー（ポストプレー）

② オーバーハンドのバックシュート

これからも男女チーム外国遠征を行うと思うが、よい試合成績と、多くの資料と、日本人向のする技術の土産を是非お願いしたいものである。

プロンジョンシュートのうまい選手達

大崎　小林　8/3　　愛和　五十嵐　13/4

田村　種村　5/2　清水　12/4

三菱　鈴木　7/1　其の他　三菱　三井田、愛知の前田、近藤などがつづいている。

各チームの速攻

大洋は確実なる速攻振りであり、他チームを引離している。速攻の一点は得点力を大きく印象づけ、速攻を食ったチームは再びの速攻をおそれ攻撃が萎縮し、攻撃力がにぶる事など速攻にはいろいろの副効果がある。

フリースローによる得点

チーム名	各試合				計	
大崎	1/0	0	3/2	1/1	5/3	
愛知	1/0	3/1	2/0	1/1	7/2	
田村	1/1	1/0	1/0	0	3/1	
三菱	4/0	4/1	5/0	1/0	14/1	
大洋	6/0	3/0	5/1	2/0	16/1	
					35/8	0.22

7mスロー

チーム	各試合				
大崎	1/1	3/2	2/1	1/1	7/5
愛知	3/2	2/2	0	0	5/4
田村	1/1	4/3	3/0	2/2	10/6
三菱	4/2	1/1	1/0	2/0	8/3
大洋	4/3	3/0	1/1	0	8/4
					38/22 0.57

防禦率

チーム名	被シュート	与えた得点	防禦率
大崎	128	31	0.76
愛知	177	67	0.62
田村	145	27	0.82
三菱	147	38	0.73
大洋	109	27	0.75
	706	190	0.75

各チームのシュート分布

チーム名	40スロー以上	30スロー	20スロー	10スロー	10以下
大崎	1	1			
愛知	1	1			
田村			2	4	
三菱		1	2	2	3
大洋		3	2		1

ポストプレーによる得点

ポスト、プレーは「目のプレー」である。小さな情況がわからなければ出来ない。よく目の利いたコンビのプレーである。表から見ると大洋がすば抜けている。良く相手を見て試合を行っている。これについて田村が良いが、思い切ってポストマンにパスを入れることが大洋より少ない、シュート地点がエリヤの中央近くであるので得点率は高く0.72である。

7MTによる得点

世界選手権では7mスローは75%入る。それでも反則で7mスローにもちこんだ方が得すると云われる位である。日本トップチームのシュート率としては低すぎる様でこれでは反則をしてフリースロー、7mスローにもちこんだ方が得だとずるい考えも浮んでくる。

実業団大会中によく入れた選手は田村　小林 7/5 大洋　渡辺 6/3　三菱　阿部 7/3である。

各選手のシュート力比較

40スロー以上の選手

大崎　加藤 46/11 0.24　愛知 小林 41/14 0.35

30スロー以上の選手

大洋　新保 31/11 0.35　大洋 枝尾 31/9 0.29

大洋　垂水 31/13 0.42

大崎　早川 34/3　0.09

愛知　前田 33/1　0.03

三菱　阿部 30/7　0.23

20スロー台の選手

大洋　渡辺 27/9　0.33

大洋　射場 20/7　0.35

田村　渡辺 21/6　0.29

田村　長谷川 23/6　0.26

三菱　三井田 23/4　0.17

三菱　江川 21/8　0.38

以上の選手がシュート主力を務めている。ポジションとかフォーメーションで多少ちがってくるがシュートクインはだれであろうか。

以上が実業団5チームリーグ中にとれた資料であり参考になれば幸である。

各チームの試合記録及び個人の記録表希望者には差上げます。（了）

(注)　説明文中、田村—田村紡、大洋—大洋デパート、三菱—三菱鉛筆、大崎—大崎電気、愛知—愛知紡の略。

秋のシーズンが開幕

秋のシーズンが開幕した……。東西のへき頭を飾ったのは2日大阪府立体育会館の東西社会人対抗大崎電気(埼玉)—大阪イーグルス戦と14日早大記念会堂の第16回早慶定期戦。大阪では約一千五百、早慶戦でも千人を越すファン（ともに有料）が動員されたのは注目してよい。

東　京……第16回早慶定期戦
大　阪……大崎対イーグルス

大崎電気逆転勝ち

ハンドボールファンの獲得と普及を目的とした初の東西社会人対抗戦大崎電気(埼玉)×大阪イーグルスの試合は9月2日午後6時から大阪府立体育会館に二千人近い観客を集めて開かれ試合巧者同士らしい期待にたがわぬ接戦の末、大崎電気が終盤に逆転勝ちした。

大崎電気 19（8—10 / 11—6）16 大阪イーグルス

【後記】選手の立ち場として、中学、高校生千人、一般五百人の熱心なハンドボール理解者が観戦してくれたことをまず感謝したい。

大崎はベテラン竹野、福本、井上、新鋭近藤、飯田、旗野、近森君ら全国的に知れわたっている名プレイヤー揃い。対するイーグルスも、地元の力強い支援と熱声にベテラン井上、青木、北岡、鳥崎、すつかりハンドボールマンになった松尾、加藤、新進樫塚、福井君達の奮闘よろしく善戦、最後までシーソゲームを展開し観衆の期待に答えることが出来たものと信じたい。

近年国際試合が盛んになったとは云え、年間一回程度、そしていつもながらチームにとっては経済的に大負担を覚悟しなければならない。

国内のレベルも著しいものがある現在、加えて中学、高校生の層が年毎に厚くなっている時、手軽るに「良いゲーム」が多くの人達に観てもらえる機会が出来るなら、きっとすばらしいことだろう。日本リーグの実現を夢見る私には、現状を考え、このようなゲームが、今後思いきって企画されることを望むものである。

東京では毎年暮に選抜大会が開かれているが地方では、「良いゲーム」を観る機会がないのが現状で、組合せによっては興味のわく対戦も出てくることだろう。

更に感じた点を列記すると。

① うまく計画すれば、経費がマイナスにならない。

② 有料となれば、選手の自覚が違うし、本当の意味で理解者が増す。

③ 回が重さなれば観衆の目も肥えるし、スター(よい意味での…)が生れ、スターは期待に答えるべく更に練磨努力する。

④ 勝敗を二次的に考え、思いきったプレーが出来る為に選手にとっては最大の実戦練習となり、中高生にはこの上ない「シゲキ」となろう。

⑤ 新聞の「本日のスポーツ」欄に一行戴せてもらうと当日売り入場券が相当数はけたことを考えるとP・Rをより盛んにしなければならない。

⑥ 現段階においては教職員の全面的な協力が必要であろう。

以上雑感を述べたが終りに、この試合の主旨に賛同され遠路大阪迄試合に来てくれた竹野監督以下大崎電気チームの各位に最大の敬意を表したい。（東嘉伸・大阪イーグルス選手）

早大、終了寸前に決勝点

伝統の第16回早慶定期戦は9月14日午後5時から早大記念会堂に両校応援団をはじめ約一千の観客を集めて行われた。

試合は、早大が立ちあがり4—0とリードしたが、慶大も古村らの巧技で追いあげ後半開始直後タイスコア。その後は一進一退、五たび同点をくりかえし白熱したが、早大は18—18からタイムアップ寸前、鈴木幸のゴールが貴重な決勝点となり辛勝した。早大は2連勝で通算成績も9勝7敗とリード。

なお、高校戦は慶応が6年ぶりに勝ち、OB戦は早大の連勝。

▽高校戦(第10回)

慶応 8（4—1 / 4—3）4 早大学院

通算成績は早大学院7勝3敗

▽OB戦

稲門ク（早OB）20（11—6 / 9—8）14 三田ク（慶OB）

通算成績は三田ク7勝6敗2分1中止

▽現役戦

早大 19（12—11 / 7—7）18 慶大

得	【早大】		【慶大】	得
0	綿貫	GK	山田	0
3	荻原	FP	古村	7
1	森田	FP	田中	4
3	鈴木幸	FP	峯村	3
3	鈴木博	FP	川上	3
4	尾島	FP	宮越	1
5	杉山	FP	川島	0
19		計		18
1		7MT		2

主審・木野(立教出)

各地の記録

寄稿歓迎

―ブロック高校選手権―

第21回 東北高校

8月16日から19日まで盛岡一高球技場に東北各県の勝者（女子は青森を除く）を集め、国体予選を兼ねて行われた。

男子は、大石田（山形）が苦戦をつづけながらも勝ち進み2年連続優勝した。

女子は、花巻南、花巻農の混成による全岩手が、準決勝でライバルの秋田和洋を降し、決勝では小高農（福島）を後半に圧倒して快勝、栄冠を得た。岩手代表の優勝は2年連続。なお、今年のブロック高校選手権はすべて終了した。

▼男子1回戦（2試合）

仙台二（宮城）16（7―4、9―6）10 全岩手

大曲（秋田）15（4―8、11―3）11 鰺ヶ沢（青森）

▽同準決勝

大石田（山形）14（8―5、4―7、…、1―1、1―0）13 仙台二

大曲 16（9―3、7―7）10 聖光学院工（福島）

▽同決勝

大石田 12（5―4、7―7）11 大曲

▼女子1回戦（1試合）

和洋女（秋田）7（4―3、3―3）6 涌谷（宮城）

▽同準決勝

全岩手 9（4―3、5―3）6 和洋女

小高農（福島）12（7―5、5―3）8 米沢女（山形）

▽同決勝

全岩手 15（3―2、12―1）3 小高農

【昭和43年度ブロック高校選手権優勝校】

	男子	女子
▽北海道	函館東	室蘭商
▽東北	大石田（山形）	全岩手（岩手）
▽関東	中大附（東京）	栃木女（栃木）
▽北信越	小杉（富山）	高岡女（富山）
▽東海	清水商（静岡）	清水商（静岡）
▽近畿	洛星（京都）	精華女（京都）
▽中国	下関中央工（山口）	真備（岡山）
▽四国	新居浜工（愛媛）	新居浜商（愛媛）
▽九州	熊本市商（熊本）	菊池農（熊本）

東北学院大OBが4連勝

第21回東北選手権は8月17日から3日間盛岡一高球技場に男女11チームが参加して開かれた。

男子は決勝リーグで東北学院大OB（宮城）が、盛岡商友会（岩手）、青森マツダを接戦の末降して首位となり4年連続優勝を決めた。女子は全岩手が安定した攻守で勝ち進み初優勝した。岩手代表の優勝は初めて。

▼男子予選試合（3試合）

東北学院大OB（宮城）13―11 大曲ク（秋田）

青森マツダ（青森）15―14 寒河江ク（山形）

盛岡商友会（岩手）27―22 SGク（福島）

▽同決勝リーグ

東北学院大OB 10（4―6、6―3）9 青森マツダ

盛岡商友会 20（12―2、8―5）7 青森マツダ

東北学院大OB 14（5―4、9―8）12 盛岡商友会

【順位】①東北学院大OB②盛岡商友会③青森マツダ

▼女子1回戦（1試合）

全涌谷（宮城）34―9 日電高畠（山形）

同準決勝

全和洋（秋田）19（10―8、9―4）12 全涌谷

全岩手（岩手）20（8―6、12―3）9 東北宗形製作所（福島）

▽同決勝

全岩手 13（6―3、7―6）9 全和洋

男女とも大崎電気勝つ

第15回関東選手権は8月24、25の両日東京・駒沢第2球技場に関東8県の男女各代表が参加してトーナメントで行われた。

男子は大崎電気（埼玉）が全日本2位の貫録を見せ、決勝で全神奈川の追撃をふり切り優勝、9年連続優勝した。

女子は、予想通り実業団3チームが上位を占めた結果、大崎電気（埼玉）が、三菱鉛筆（神奈川）を後半よく攻めこんで快勝、6連勝を飾った。大崎電気の男女制覇はこれで6年連続である。

▼男子1回戦（準々決勝）

大崎電気（埼玉）38（15―1、23―1）2 佐原ク（千葉）

塩山ク（山梨）24（12―11、12―10）21 光電工業（群馬）

栃木AOK（栃木）16（10―6、6―7）13 三景（東京）

全神奈川（神奈川）21（7―5、14―6）11 自衛隊勝田

▽同準決勝

大崎電気 37（18―8、19―7）15 塩山ク

全神奈川 18（8―8、10―7）15 栃木AOK

▽同決勝

大崎電気 20（12―9、8―9）18 全神奈川

▼女子1回戦（準々決勝）

大崎電気（埼玉）16（7―0、9―2）2 栃木女OG（栃木）

梨窓ク（山梨）7（4―0、3―1）1 佐原ク（千葉）

東京重機（東京）24（11―1、13―2）3 高崎市女OG（群馬）

三菱鉛筆（神奈川）32（16―0、16―1）1 全茨城（茨城）

▽同準決勝

大崎電気 28（14―0、14―0）0 梨窓ク

三菱鉛筆 9（3―5、6―2）7 東京重機

▽同決勝

大崎電気 12（5―5、7―3）8 三菱鉛筆

常盤工業、宿原の初優勝

第20回東海選手権は8月24、25の両日名古屋・愛知県体育館に東海4県の予選勝者が集まり行われた。

男子トーナメントは初の実業団同士による決勝となり、常盤工業（岐阜）が制勝、初優勝をとげた。岐阜代表の優勝は初めて。女子リーグは前年優勝の愛知紡（愛知）が予選段階で棄権し、田村紡（三重）も、若手中心の編成とあって混戦が予想されたが、大洋紡（岐阜）、ブラザー工業（愛知）ら初出場組の食下りを退けて全勝、2年ぶり通算4回目の優勝を飾った。

▼男子準決勝（1回戦）

本田技研（三重）15（6―5、9―6）11 桜丘会（愛知）

常盤工業（岐阜）17（8―3、9―7）10 全静岡（静岡）

▽同決勝
常盤工業 20（10－6、10－6）12 本田技研

▼女子リーグ
ブラザー工業（愛知） 10－8 大洋紡（岐阜）
田村紡（三重） 10－1 全静岡（静岡）
ブラザー工業 12－7 全静岡
田村紡 10－7 大洋紡
田村紡 16－10 ブラザー工業
大洋紡 11－6 全静岡

【順位】①田村紡3戦全勝②ブラザー工業2勝1敗③大洋紡1勝2敗④全静岡

男女94校が参加
女子で三谷が3連勝

▼第22回愛知体中学総合体育大会ハンドボール（8月・蒲郡市）
▽男子準々決勝
神守 15－15 三谷
抽せんにより神守中の勝ち
桜田 23－11 大口
豊岡 24－6 菊井
一宮北 21－11 美川
▽同準決勝
桜田 14－9 神守
一宮北 11－9 豊岡
▽同決勝
桜田 15（5－5、10－9）14 一宮北
桜田中は初優勝
▽女子準々決勝
桜田 12－9 蒲郡
神守 13－7 六ッ美
三谷 20－5 刈谷南
上野 22－2 守山
▽同準決勝
神守 9－4 桜田
三谷 5－3 上野
▽同決勝
三谷 9（4－2、5－1）3 神守中
三谷中は3年連続優勝
（注）この大会は男女とも地区予選勝者16校によって争われたが、予選参加校数は男57、女37校の多きを数えた。

クラブリーグは中京勝つ

▼第5回愛知クラブ対抗リーグ（7月・名古屋金山体育館）
▽1部
桜丘会 27－8 愛工ク
中京ク 36－6 愛工ク
東杏会 20－11 名大ク
向陽ク 20－14 名大ク
愛工ク 25－15 向陽ク
中京ク 28－12 東杏会
桜丘会 23－12 東杏会
中京ク 28－16 向陽ク
愛工ク 20－14 東杏会
桜丘会 50－20 名大ク
愛工ク 31－14 名大ク
桜丘会 31－13 向陽ク
中京ク 39－13 名大ク
向陽ク 16－10 東杏会
中京ク 28－9 桜丘会

【順位】①中京ク5戦全勝②桜丘会4勝1敗③愛工ク④向陽ク⑤東杏会⑥名大ク

▽2部優勝決定戦
上野ク 23－9 愛教大ク
▽同3位決定戦
尾北ク 不戦勝 東山ク
▽同5位決定戦
昭和ク 28－16 中川ク
▽同7位決定戦
南山ク 29－15 一宮ク
▽1・2部入れ替え戦
上野ク（2部） 28－20 名大ク（1部）

教員で埼玉強し

▼第2回埼玉・茨城・群馬3県対抗選手権（9月・埼玉県秩父高）
▽高校男子リーグ
全埼玉 13－13 富岡（群馬）
引き分け
麻生（茨城） 20－9 全埼玉
麻生 18－9 富岡

【順位】①麻生②富岡③全埼玉

▽同女子リーグ
全埼玉 13－7 笠間（茨城）
全埼玉 28－6 高崎市女（群馬）
笠間 9（分）9 高崎市女

【順位】①全埼玉②笠間③高市女

▽一般男子リーグ
自衛隊勝田（茨城） 18－17 桐朋（埼玉）
自衛隊勝田 16－11 光電工業（群馬）
光電工業 17－16 桐朋

【順位】①自衛隊勝田②光電工業③桐朋

▽教員リーグ
埼玉 46－25 群馬
茨城 28－17 群馬
埼玉 44－20 茨城

【順位】埼玉②茨城③群馬

関東学連が30周年記念式

今春5月、創立30周年を迎えた関東学生連盟ではその記念式を9月23日、東京駒沢屋内球技場で開き、男女とも関東学生選抜×関東実業団選抜の試合を行った。

青山学院大が新加盟

関東学生連盟では、今秋のリーグ戦から青山学院大（東京）が新加盟すると発表した。

これで同学連の男子は4部30校となった。

なお、全日本学生女子に出場した東京教大の加盟も決まった。

名工大、2チーム編成

東海学生連盟の名古屋工業大は今秋のリーグ戦からⅠ・Ⅱ部に分かれてチームを編成することになり、Ⅱ部は新加盟校として3部に出場する。

お願い・「各地の記録」欄への寄稿を積極的にお願いします。用紙、書式は自由。〆切日も特に設けません。ただし原文を短かくする場合と開催後2ケ月以上を経過したものは掲載いたしません御了承下さい。あて先は日本協会機関誌編集部

編集後記

▽…あっていど予想されたこととはいえソビエトで開かれる予定の世界女子7人制選手権中止の報ほど残念なことはありませんでした。遠征用制服の仮り縫いまですませ、檜舞台での活躍を期していた役員、選手諸嬢のことを思うと気の毒でなりません。

▽…政治とスポーツ。今や切りはなして考えることは不可能なようです。

緊迫した空気につつまれたというIHF総会の模様を荒川理事長からお聞きし、中止に関連の原稿を保坂会長代行にお願いしました。

スポーツを愛するものとして、読者の皆さんとともに今回の問題を改めて考えてみたいと思います

▽… 今夏の4大全日本選手権で4つの〝初優勝チーム〟が生まれたことは新鮮な話題でした。

新しい力の抬頭こそ日本ハンドボール界前進の要素です。敗者となった前王者が奮起しさらに精進につとめた時に、斯界はたくましい地力と基盤を築くことになるでしょう。

平和なミュンヘンの空に輝やく聖火の下で日本チームが活躍する夢を、夢に終わらせてはならないのです（S）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第五十八号
昭和四十年六月（　）昭和四十三年九月二十五日印刷
第三種郵便物認可　昭和四十三年十月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会（東京都渋谷区神南町二五　電話大代表(467)三一一一　振替東京五八三四八番）
編集兼発行人　保坂周助
定価百五十円（年間購読11回・千二百円）